

中川久定先生を偲ぶ

京都大学文学研究科

フランス語学フランス文学研究室

2018年6月

中川久定先生略年譜

- 1931(昭和6)年3月15日 東京に生まれる
- 1954(昭和29)年3月 京都大学文学部卒業
- 1954(昭和29)年4月 京都大学文学研究科修士課程入学
- 1956(昭和31)年3月 京都大学文学研究科修士課程修了
- 1956(昭和31)年4月 京都大学文学研究科博士課程入学
- 1958(昭和33)年11月 パリ大学文学部入学
- 1959(昭和34)年2月 パリ大学文学研究科博士課程入学(フランス政府給費留学生)
- 1961(昭和36)年1月 パリ大学文学研究科中退
- 1961(昭和36)年3月 京都大学文学研究科博士課程中退
- 1961(昭和36)年4月 名古屋大学教養部講師(フランス語担当)
- 1965(昭和40)年5月 名古屋大学教養部助教授(フランス語担当)
- 1967(昭和42)年 辰野賞受賞
- 1971(昭和46)年4月 京都大学文学部助教授(フランス語学フランス文学講座)
- 1976(昭和51)年7月 文学博士(京都大学)
- 1980(昭和55)年4月 京都大学文学部教授
- 1981(昭和56)年4月 パリ第7大学客員教授(文学・文献学担当)
[1981(昭和56)年6月まで]
- 1983(昭和58)年6月 日本18世紀学会代表幹事[1985(平成60)年6月まで]
7月 国際18世紀学会執行委員
- 1985(昭和60)年10月 パリ国立東洋言語文明研究所客員教授(比較文学担当)
[1987(昭和61)年9月まで]
- 1985(昭和60)年6月 日本フランス語フランス文学会副会長
[1989(平成元)年6月まで]
パルム・アカデミック勲章オフィシエ級受勲
- 1986(昭和61)年10月 文部省短期在外研究員(フランス、ランス大学/パリ国立図書館)
[1987(昭和62)年3月まで]
- 1990(平成2)年4月 京都大学評議員[1992(平成4)年3月まで]
- 1991(平成3)年6月 日本フランス語フランス文学会副会長
[1995(平成7)年6月まで]

1992(平成4)年4月	京都大学文学部長[1994(平成6)年3月まで]
1993(平成5)年	京都新聞文化賞受賞
1994(平成6)年3月	京都大学定年退官
1994(平成6)年4月	京都大学名誉教授 近畿大学文芸学部教授[1997(平成9)年3月まで]
1995(平成7)年8月	Société internationale d'Étude du XVIII ^e siècle 副会長 [1999(平成11)年7月まで]
12月	日本学士院会員
1997(平成9)年4月	京都国立博物館館長[2001(平成13)年3月まで]
6月	日本フランス語フランス文学会副会長 [2001(平成13)年6月まで]
2001(平成13)年4月	国際高等研究所副所長[2009(平成21)年3月まで] 勲二等瑞宝章受章 河合文化教育研究所主任研究員 大分県竹田市名誉市民
2001(平成13)年	非常勤 招聘研究員(アドバイザー)、宇宙環境利用研究システム、宇宙 開発事業団(NASDA)[2003(平成15)年まで]
2003(平成15)年	非常勤 参事(ISS/JEM 利用アドバイザー)、宇宙環境利用センター、宇 宙航空研究開発機構(JAXA)[2005(平成17)年まで]
2005(平成17)年	非常勤 参事(ISS/JEM 利用アドバイザー)、国際高等研究所・JAXA 共 同研究[2009(平成21)年まで]
2004(平成16)年12月	レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ級受勲
2007(平成19)年1月	京都府文化賞特別功労賞受賞
2017(平成29)年6月18日	逝去

中川久定先生研究業績一覧

2018年4月
小関武史 編

凡例

1. この一覧は、中川久定先生の研究業績を年代順に掲げたものである。
2. 同一年内の研究業績に関しては、著書、編著、論文、解説・月報・辞典項目、資料、書評、新聞への寄稿、小文・エッセー、翻訳、その他、という順序で区分した(論文とも小文・エッセーとも決しがたい場合は、論文として扱った)。それぞれの区分の中では、可能な限り発表順に配列した。
3. すべての業績について、年ごとに整理番号を割り当て、各研究業績の左端に記した。
4. 論文については、発表媒体に応じて以下の記号によって種別を明らかにし、整理番号の次に記した。
 - A 単行本中に掲載された論文
 - B 紀要に掲載された論文
 - C 学会誌や協会誌に掲載された論文
 - D その他の雑誌に掲載された論文
 - E 報告書やシンポジウム記録としてまとめられた論文
 - F 対談や座談会での発言記録
5. 互いに関連のある業績(ある論文が改稿されたり、雑誌論文が単行本に掲載されたりした場合)については、矢印によって参照先を示した。矢印の先の数字は、発表年および整理番号である。たとえば、「1994.1」とあれば、1994年の整理番号1、すなわち、著書『啓蒙の世紀の光のもとで——デイドロと『百科全書』』を指す。
6. この一覧を作成するにあたり、1994年3月に中川久定先生が京都大学を定年退官されたときにまとめられた業績一覧を基本資料とした。それ以降の業績については、主として Researchmap に登録された業績を採取するとともに、『日本18世紀学会年報』や『学叢』(京都国立博物館)に掲載された記録および洋子夫人からの情報提供によって不足を補った。ただし、新聞への寄稿や小文・エッセーなどについては、見逃したものがある可能性が高い。読者のご寛恕を乞う次第である。
7. 1994年版とは異なり、この研究業績一覧では口頭発表の収録を見送った。紙数が大幅に増えるだけでなく、網羅的に追跡することが不可能だったからである。とはいえ、学会やシンポジウムでの口頭発表の多くは、後に活字化されている。シンポジウムの記録集に掲載された論文の場合は、書誌情報に開催場所や時期を盛り込むよう心がけた。
8. 2015年に刊行された著書 *L'Esprit des Lumières en France et au Japon* については、論文集という性格に鑑みて、すべての章のタイトルを掲げた。そして、もとになった論文への参照指示を添えた。1990年代以降にフランス語で発表された研究論文が、大きな流れとなってこの著書に注ぎ込んでいる様子を実感していただけたと思う。
9. 2016年に発行された『「宇宙の人間学」研究会記録』は、中川久定先生ご自身が執筆者として

名を連ねているわけではないものの、「宇宙の人間学」という呼称それ自体が中川先生の創案によるものであることと、中川先生が執筆された文章が「素案」としてそのまま採録された箇所があることをふまえて、「その他」として採録した。文書記録のもとになった取材は、2011 年に行われていることを付記しておく。

10. 大学の紀要などのように発行主体が出版物の標題から自明である場合は、表記を省略した。
11. その他、頻出する一部の発行物については、以下の通り出版社や発行主体を省略した。また、標題そのものを略して記した場合もある。

H. Champion : Honoré Champion

P. U. F. : Presses Universitaires de France

RDE : *Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie*, Paris, Aux Amateurs de Livres / Klincksieck / Société Diderot

SJLLF : Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises

SVEC : *Studies on Voltaire and the Eighteenth Century*, Oxford, Voltaire Foundation

『仏文研究』 『仏文研究』, 京都大学フランス語学フランス文学研究会

『フランス語フランス文学研究』 『フランス語フランス文学研究』, 日本フランス語フランス文学会

1956(昭和 31)年

論文

- 1 A 「「秩序」の擁護者・ヴェルニヨ」, 桑原武夫(編)『フランス革命の指導者』上, 創元社(創元歴史選書), p. 165-211, 7月20日
→ 1978.1

翻訳(共訳)

- 2 ソーニエ『十八世紀フランス文学』, 山田稔/中川久定/田村俣(共訳), 白水社(文庫クセジュ), 165-VIII p., 10月10日
→ 1965.4

1957(昭和 32)年

論文

- 1 C 「デイドロの小説作品における文体について」, 『フランス語研究』, 日本フランス語学会, 14-15 合併号, p. 46-50, 3月30日

1962(昭和 37)年

論文

- 1 D 「デイドロ研究の動向」, 『思想』, 岩波書店, 7月号, p. 118-128.
2 B 「デイドロの3原稿群の歴史」, 『名古屋大学教養部紀要』, 第6輯, p. 135-154, 7月20日

1963(昭和 38)年

論文

- 1 B 「『百科全書』の項目《美》におけるデイドロの美論」, 『名古屋大学教養部紀要』, 第7輯, p. 106-125, 3月20日
→ 1994.1

1965(昭和 40)年

論文

- 1 B 「デイドロ『セネカ伝』の2つのテキスト(その1)」, 『名古屋大学教養部紀要』, 第9輯, p. 143-177, 3月20日
→ 1966.4 ; 1980.1

2 C 「レナル師『両インド史』における日本観(Ⅰ)」, 『名古屋日仏文化協会報』, N° 9, p. 1, 11 月 6 日

→ 1965.3 ; 1966.2 ; 1966.3

3 C 「レナル師『両インド史』における日本観(Ⅱ)」, 『名古屋日仏文化協会報』, N° 10, p. 1, 12 月 7 日

→ 1965.2 ; 1966.2 ; 1966.3

翻訳(共訳)

4 ソーニエ『十八世紀フランス文学』改訳第 2 版, 山田稔/中川久定/田村俣(共訳), 白水社(文庫クセジュ), 165-VIII p., 10 月 10 日

→ 1956.2

1966(昭和 41)年

編著

1 Denis Diderot, *Essai sur Sénèque : Texte comparé de l'édition de 1778 et de celle de 1782, avec une représentation, des notes et des relevés de variantes (I)*, Librairie Takeuchi, 255 p.

→ 1968.1

論文

2 C 「レナル師『両インド史』における日本観(Ⅲ)」, 『名古屋日仏文化協会報』, N° 11, p. 1, 1 月 1 日

→ 1965.2 ; 1965.3 ; 1966.3

3 C 「レナル師『両インド史』における日本観(Ⅳ)」, 『名古屋日仏文化協会報』, N° 12, p. 1, 2 月 1 日

→ 1965.2 ; 1965.3 ; 1966.2

4 B 「デイドロ『セネカ伝』の2つのテキスト(その2)」, 『名古屋大学教養部紀要』, 第 10 輯, p. 112-121, 2 月 25 日

→ 1965.1 ; 1980.1

5 C 「*Le Neveu de Rameau* の対話のひとつの解釈——対話における鍵言葉——」, 『フランス語フランス文学研究』, N° 9, p. 21-26, 10 月 5 日

→ 1994.1

6 D 「デイドロ『ラモーの甥』」, 『ふらんす』, 白水社, 11 月号, p. 29-37.

1967(昭和42)年

論文

- 1 B 「デイドロにおける徳の鑑としてのソクラテス——「デイドロにおけるソクラテスの問題」の(上)——」, 『名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学』, 第11輯, p. 268-392, 3月25日
→ 1970.1 ; 1980.1

新聞

- 2 「テキストへの疑義」, 朝日新聞(名古屋版夕刊), 10月27日

1968(昭和43)年

編著

- 1 Denis Diderot, *Essai sur Sénèque : Texte comparé de l'édition de 1778 et de celle de 1782, avec une représentation, des notes et des relevés de variantes (II)*, Librairie Takeuchi, XI-296 p.
→ 1966.1

論文

- 2 B 「ブーガンヴィル著『世界一周航海記』、デイドロの書評『世界一周航海記』、およびデイドロの著書『ブーガンヴィル航海記補遺』——I」, 『名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学』, 第12輯, p. 196-224, 3月25日
→ 1969.1 ; 1994.1

新聞

- 3 「生きているデイドロ——新しい原理発見へ動く精神」, 朝日新聞(夕刊), 3月27日

小文・エッセー

- 4 「フランス語科」, 『名大教養部報』, 第4号, 4月8日

1969(昭和44)年

論文

- 1 B 「ブーガンヴィル著『世界一周航海記』、デイドロの書評『世界一周航海記』、およびデイドロの著書『ブーガンヴィル航海記補遺』——II(完)」, 『名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学』, 第13輯, p. 203-236, 3月25日
→ 1968.2 ; 1994.1
- 2 C 「デイドロにおける文体の観念」, 『文体論研究』, 日本文体論協会, 第14号, p. 60-70, 6月15日

1970(昭和 45)年

論文

- 1 B 「デイドロにおけるソクラテスの問題(下)——デイドロの作品にあらわれたソクラテスのイメージ——」, 『名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学』, 第 14 輯, p. 148-220, 3 月 15 日
→ 1967.1 ; 1980.1
- 2 C 「Diderot における《postérité》の観念——Falconet との論争書簡を中心に——」, 『フランス語フランス文学研究』, N° 17, p. 30-37.
→ 1980.1

解説・月報・辞典項目

- 3 「フランス十八世紀の哲学者たち」中のデイドロ、ダランベールの章, 『世界の名著 29 ヴォルテール、デイドロ、ダランベール』, 中央公論社, p. 27-60, 11 月 30 日
→ 1970.7
- 4 項目《ダランベール》、《デイドロ》, 社会科学大事典編集委員会(編)『社会科学大事典』, 鹿島出版会, 第 12 巻

新聞

- 5 「デイドロ像修正」, 朝日新聞(名古屋版夕刊), 5 月 2 日
- 6 「十八世紀フランス「百科全書」の日本論——デイドロ忌にあたって 感嘆すべき“57 項目”」, 中日新聞(夕刊), 7 月 31 日

翻訳

- 7 デイドロ『ブーガンヴィル航海記補遺』, 『世界の名著 29 ヴォルテール、デイドロ、ダランベール』, 中央公論社, p. 341-413, 11 月 30 日
→ 1970.3 ; 1997.24

1971(昭和 46)年

論文

- 1 B 「デイドロ『聾啞者にかんする手紙』のふたつの問題(I)」, 『名古屋大学教養部紀要 外国語・外国文学』, 第 15 輯, p. 292-313, 2 月 27 日
- 2 D 「フランス『百科全書』と〈胃学者〉デイドロ」, 『月刊百科』, 平凡社, N° 106, p. 14-15, 7 月

書評

- 3 「意図・テキスト・歴史的意味の間——桑原武夫編『ルソー論集』について——」, 『思想』, 岩波書店, 5月号, p. 71-83.

新聞

- 4 「フランス『百科全書』の精神——読者を彼自身の思考につき戻すいまなお革命的な書物」, 図書新聞, 11月6日

翻訳

- 5 デイドロ「美」, デイドロ／ダランベール(編), 桑原武夫(訳編)『百科全書』, 岩波書店(岩波文庫), p. 334-362, 6月16日

1972(昭和47)年

論文

- 1 D 「18世紀フランスの言語論——コンディヤック、デイドロ、ルソー」, 『思想』, 岩波書店, 2月号, p. 191-216.
→ 1994.1

書評

- 2 ランスロ＝アルノー(著)、ポール・リーチ(編序)『ポール・ロワイヤル文法』書評 「言語の慣用の理論的根拠——“話す文法の真の基礎”の解明を意図」, 日本読書新聞, 第1614号, 4月3日
→ 1972.3
- 3 「『ポール・ロワイヤル文法』」, 『月刊言語』, 大修館書店, 7月号, p. 62-67.
→ 1972.2

小文・エッセー

- 4 「跋に代えて——故田中敬次郎氏の思い出——」, 田中敬次郎『ラシーヌ研究』, 社会思想社(社会思想叢書), p. 383-384, 4月20日

1973(昭和48)年

論文

- 1 B 「デイドロの『セネカ論』——初版と第2版とに表現された著者の意識の構造にかんする考察——(上)」, 『京都大学文学部研究紀要』, 第14号, p. 45-185.
→ 1975.3 ; 1980.1

書評

- 2 小林善彦『ルソーとその時代』書評 「十八世紀フランス思想の一つの展望——社会的事件と

人間関係との交錯する場」, 日本読書新聞, 第 1710 号, 6 月 18 日

1974(昭和 49)年

論文

- 1 D 「至福の意識と魂の肉体からの離脱の感覚——ルソーの『孤独な散歩者の夢想』」, 『現代思想』, 青土社, 5 月号, p. 158-173.

新聞

- 2 「18 世紀フランス「百科全書」と京都——ヴェントゥリ教授の京都散策に同行して」, 京都新聞, 10 月 24 日

小文・エッセー

- 3 《春季大会司会者報告》「18 世紀 杉野薫氏 《Jean-Jacques Rousseau : De la démocratie par le *Contrat social*》」, 『日本フランス語フランス文学学会学会ニュース』, 第 37 号, 8 月 1 日
- 4 「フランス語学フランス文学」, 『以文』, 京大以文会, 10 月

1975(昭和 50)年

論文

- 1 D 「18 世紀フランス『百科全書』の日本観(上)——日本にかんする 65 項目の紹介と考察」, 『思想』, 岩波書店, 2 月号, p. 205-231.
→ 1975.2 ; 1985.2 ; 1992.1 ; 1994.1
- 2 D 「18 世紀フランス『百科全書』の日本観(下)——日本にかんする 65 項目の紹介と考察」, 『思想』, 岩波書店, 3 月号, p. 409-434.
→ 1975.1 ; 1985.2 ; 1992.1 ; 1994.1
- 3 B 「デイドロの『セネカ論』——初版と第 2 版とに表現された著者の意識の構造にかんする考察——(下)」, 『京都大学文学部研究紀要』, 第 15 号, p. 119-355.
→ 1973.1 ; 1980.1

解説・月報・辞典項目

- 4 「ヨーロッパの「虚構」と「事実」の背後にあるもの——吉川先生の問いかけに触発されて——」, 『吉川幸次郎全集』第 21 巻, 「月報」, 筑摩書房, 5 月

1976(昭和 51)年

論文

- 1 A 「自然と情熱の発見——『パルムの僧院』にそくして」, 岩波講座『文学』第5巻(表現の方法 2, 世界の文学 下), 岩波書店, p. 65-83, 3月10日
- 2 D 《思想の言葉》(スタンダール『アンリ・ブリュラーの生涯』……), 『思想』, 岩波書店, 5月号, p. 68-69.
- 3 A 「哲学者たちの小説」, 『フランス文学講座』第1巻(小説 1), 大修館書店, p. 285-312, 12月1日
→ 1994.1

翻訳

- 4 デイドロ『基本原理入門』, 『デイドロ著作集』第1巻(哲学 I), 法政大学出版局, p. 165-194, 3月30日

1977(昭和52)年

論文

- 1 A 「啓蒙思想と『百科全書』」, 『フランス文学講座』第5巻(思想), 大修館書店, p. 313-333, 6月10日
→ 1994.1
- 2 D 「ジャン=ジャック・ルソーの基本的問題(上)——『対話』の読解を通して——」, 『思想』, 岩波書店, 8月号, p. 1-25.
→ 1977.3 ; 1977.4 ; 1983.1 ; 1998.1
- 3 D 「ジャン=ジャック・ルソーの基本的問題(中)——『対話』の読解を通して——」, 『思想』, 岩波書店, 9月号, p. 22-38.
→ 1977.2 ; 1977.4 ; 1983.1 ; 1998.1
- 4 D 「ジャン=ジャック・ルソーの基本的問題(下)——『対話』の読解を通して——」, 『思想』, 岩波書店, 11月号, p. 101-137.
→ 1977.2 ; 1977.3 ; 1983.1 ; 1998.1

解説・月報・辞典項目

- 5 項目《デイドロ》、《百科全書》, 生松敬三/木田元/伊東俊太郎/岩田靖夫(編)『西洋哲学史の基礎知識』, 有斐閣(有斐閣ブックス), p. 186-188, 6月20日

書評

- 6 「杉捷夫著『フランス文芸批評史』上巻」, 『文学』, 岩波書店, 4月号, p. 125-136.

→ 1977.7

- 7 『『フランス文芸批評史』(上巻)杉捷夫著』, 朝日新聞, 5月23日

→ 1977.6

- 8 B. グレトウイゼン『フランス革命の哲学』書評 「フランス十八世紀思想史の古典的名著——法論議に集約して考察——」, 週刊読書人, 9月12日

- 9 「吉川幸次郎『読書の学』——フランス文学の一読者による紹介と感想——」, 『中国文学報』, 京都大学文学部中国語中国文学研究室内中国文学会, 第28冊, p. 143-157, 10月

小文・エッセー

- 10 「山口昌男氏の「独創性」?」, 『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 2月4日号, p. 99.

- 11 《秋季大会司会者報告》「17・18世紀 湊野正満氏, 小山彰氏」, 『日本フランス語フランス文学会学会ニュース』, 第46号, 11月25日

1978(昭和53)年

論文

- 1 A 「「秩序」の擁護者・ヴェルニヨ」, 桑原武夫(編)『フランス革命の指導者』, 朝日新聞社(朝日選書), p. 133-169, 2月20日

→ 1956.1

- 2 D 「自我のことばとニルヴァーナのことば——ルソー・ヴォルテール没後二百年記念のために——」, 『思想』, 岩波書店, 6月号(特集:ルソー・ヴォルテール), p. 4-23.

→ 1983.1 ; 1998.1

- 3 D 「ヨーロッパにおける自伝の文学(一)——ルソーとスタンダールに即して——」, 『図書』, 岩波書店, 7月号, p. 2-16.

→ 1978.6 ; 1978.7 ; 1978.8 ; 1979.1

- 4 D 「自伝とは何か」, 『創造の世界』, 小学館, 27号, p. 46-65, 8月1日

- 5 F 《シンポジウム》「自伝の条件——絶対者の存在と孤独」, 梅原猛/興膳宏/作田啓一/筑波常治/中川久定, 『創造の世界』, 小学館, 27号, p. 66-83, 8月1日

- 6 D 「ヨーロッパにおける自伝の文学(二)——ルソーとスタンダールに即して——」, 『図書』, 岩波書店, 8月号, p. 41-63.

→ 1978.3 ; 1978.7 ; 1978.8 ; 1979.1

7 D 「ヨーロッパにおける自伝の文学(三)——ルソーとスタンダールに即して——」, 『図書』, 岩波書店, 9月号, p. 49-63.

→ 1978.3 ; 1978.6 ; 1978.8 ; 1979.1

8 D 「ヨーロッパにおける自伝の文学(四)——ルソーとスタンダールに即して——」, 『図書』, 岩波書店, 10月号, p. 53-63.

→ 1978.3 ; 1978.6 ; 1978.7 ; 1979.1

解説・月報・辞典項目

9 「あの時高橋はいったいなにを考えていたのだろう」, 『高橋和巳全集』第10巻(小説10), 「月報」10, 河出書房新社, p. 3-6, 1月15日

資料

10 「ルソー・ヴォルテール文献目録」, 清水康子／中川久定／中川信(共編), 『思想』, 岩波書店, 6月号(特集:ルソー・ヴォルテール), p. 1-3.

新聞

11 「自伝の文学の創始者ジャン＝ジャック・ルソー——訴えかける魂の真実」, 朝日新聞, 1月12日

12 「大ジャーナリスト ヴォルテール——新しい希望の原理再建を願う」, 朝日新聞(夕刊), 12月25日

1979(昭和54)年

著書

1 『自伝の文学——ルソーとスタンダール』, 岩波書店(岩波新書), ii+191 p., 1月22日

→ 1978.3 ; 1978.6 ; 1978.7 ; 1978.8

論文

2 C 「ルソー、ヴォルテールの「私」——「私」の体験とその論理化という観点から思想を読む試み——」, 『社会思想史研究』, ミネルヴァ書房, N° 3, p. 49-50, 11月20日

3 D 「底流としての「ルソーとロマン主義」——指輪にかけた願望とニルヴァーナの体験」, 『現代思想』, 青土社, 臨時増刊12月号(総特集:ルソー ロマン主義とはなにか), p. 16-31.

→ 1983.1

4 F 「自我とは何か——ルソーとロマン主義」, 木村敏／中川久定, 『現代思想』, 青土社, 臨時増刊12月号(総特集:ルソー ロマン主義とはなにか), p. 92-111.

資料

- 5 「ルソー年譜」, 中川久定／湊野ゆり子(共編), 『現代思想』, 青土社, 臨時増刊 12月号(総特集:ルソー ロマン主義とはなにか), p. 310-313.

小文・エッセー

- 6 「ヨーロッパを見返すひとつの眼差し」, 『大航海時代叢書』カタログ, 岩波書店, p. 4, 4月
→ 1981.1

1980(昭和 55)年

著書

- 1 『デイドロの『セネカ論』——初版と第2版とに表現された著者の意識の構造にかんする考察——』, 岩波書店, xvi+668 p., 7月9日
→ 1965.1 ; 1966.4 ; 1967.1 ; 1970.1 ; 1970.2 ; 1973.1 ; 1975.3

論文

- 2 F 「表層の知・深層の知」, 中川久定／山口昌男, 『思想』, 岩波書店, 1月号(特集:知の一般理論), p. 2-25.
→ 1987.6
- 3 A 「批評の原理の転換——規範としての「趣味」から経験としての「趣味」へ——」, 『フランス文学講座』第6巻(批評), 大修館書店, p. 55-89, 9月10日
→ 1994.1

新聞

- 4 「日本 18 世紀学会とは——人類史としての研究」, 朝日新聞(夕刊), 6月30日

小文・エッセー

- 5 「本城先生」, 『仏文研究』, IX, p. 3-5, 5月20日

1981(昭和 56)年

論文

- 1 D 「ヨーロッパを見返すひとつの眼差し——ラス・カサス『インディアス史』」, 『図書』, 岩波書店, 10月号, p. 2-5.
→ 1979.6

1982(昭和 57)年

論文

- 1 E 「フランス『百科全書』にあらわれたイタリア問題の研究」, 『昭和 56 年度科学研究費補助金研究
究成果報告書』, 京都大学, p. 1-10.
- 2 D 《思想の言葉》(マルセル・ブルーストの小説の登場人物は……), 『思想』, 岩波書店, 8 月号,
p. 62-63.

解説・月報・辞典項目

- 3 「解説」, ピーター・ゲイ『自由の科学——ヨーロッパ啓蒙思想の社会史——』I, 中川久定／鷺
見洋一／中川洋子／永見文雄／玉井通和(共訳), ミネルヴァ書房, p. 1-22, 6 月 20 日
→ 1982.8 ; 1994.1
- 4 「解説」, 中川久定(編)『林達夫評論集』, 岩波書店(岩波文庫), p. 338-362, 7 月

書評

- 5 海老沢敏『ルソーと音楽』書評 「民衆の情念のうちに流れるルソーの音楽」, 『週刊ポスト』, 小
学館, 2 月 19 日号
- 6 A. モミリアーノ『伝記文学の誕生』書評 「歴史研究から文学へと変貌した伝記・自伝の成長」,
『朝日ジャーナル』, 朝日新聞社, 4 月 2 日号, p. 71-73.
- 7 「カラッチョリ著『自らの存在の内面の味わい』」, 『ていよう』, 京大生協綴葉編集委員会, N° 23,
11 月 1 日

翻訳(共訳)

- 8 ピーター・ゲイ『自由の科学——ヨーロッパ啓蒙思想の社会史——』I, 中川久定／鷺見洋一
／中川洋子／永見文雄／玉井通和(共訳), ミネルヴァ書房, 320+22 p., 6 月 20 日
→ 1982.3 ; 1986.4

1983(昭和 58)年

著書

- 1 『甦るルソー——深層の読解』, 岩波書店(岩波現代選書 82), vii+316+17 p., 8 月 31 日
→ 1977.2 ; 1977.3 ; 1977.4 ; 1978.2 ; 1979.3 ; 1998.1

論文

- 2 F 「自己・役割・他者」, 木村敏／廣松渉／中川久定, 『思想』, 岩波書店, 2 月号, p. 27-57.
→ 1990.12

解説・月報・辞典項目

- 3 「罪なくして十字架にかけられた者によって」, 『大岡昇平集』11, 岩波書店, p. 589-612, 3月
→ 1989.12
- 4 「死によって照らし出される生——大岡昇平とドストエーフスキー——」, 岩波講座『精神の科学』10, 「月報」4, 岩波書店, p. 7-9, 7月

小文・エッセー

- 5 「中川清秀四百回忌と中川講」, 『歴史と人物』, 中央公論社, 9月号

1984(昭和 59)年

論文

- 1 A 《La traduction du texte de Diderot : “Grain de levain qui fermente” 》, 《Traduire Diderot aujourd’hui 》 par Hisayasu NAKAGAWA, Hans HINTERHÄUSER, Felix de AZUA, Francisco LAFARGA, Andrea CALZOLARI, Robert LOY et Shin-ichi ICHIKAWA, *Interpréter Diderot aujourd’hui*, Centre culturel international de Cerisy-la-Salle, Le Sycomore, p. 245-248.
- 2 C 《Naissance au Japon de l’autobiographie moderne : *Oritaku shiba no ki (Souvenirs de ma vie)* d’Araï HAKUSEKI 》, *Dix-huitième siècle*, P. U. F., N° 16, p. 387-403, mai
→ 1992.1
- 3 F 「デイドロ——この未知なる人物」, J. プルースト／中川久定／鷺見洋一, 『思想』, 岩波書店, 10月号(特集:デイドロ——近代のディレンマ 没後 200年), p. 2-49.
- 4 D 「曖昧さの領域——デイドロ没後 200年記念のために——」, 『思想』, 岩波書店, 10月号(特集:デイドロ——近代のディレンマ 没後 200年), p. 50-65.
→ 1994.1

資料

- 5 「デイドロ文献目録」, 市川慎一／鷺見洋一／中川久定(共編), 『思想』, 岩波書店, 10月号(特集:デイドロ——近代のディレンマ 没後 200年), p. 1-4.

解説・月報・辞典項目

- 6 項目《イデオロジスト》、《エゴティスム》、《感覚論》、《エルベシウス》、《カバニス》、《コンディヤック》、《サン=ピエール》、《ダランベール》、《デイドロ》、《デスチュット・ド・トラシー》、《ドルバック》、《百科全書》、《メヌ・ド・ピラン》、《モーペルチュイ》、《ラ・メトリー》、《ラモーの甥》, 『大百科事典』, 平凡社

新聞

- 7 「今なお生き続ける精神——デイドロ没後 200年 心をゆり動かす存在」, 読売新聞(大阪版夕

刊), 11月14日

- 8 「デイドロの現代性——没後 200 年を迎えて 抑圧された価値復権 江戸時代の日本 系統的に紹介」, 中日新聞(夕刊), 11月16日
- 9 「デイドロの今日の意味——没後 200 年記念国際シンポ」, 京都新聞(夕刊), 12月2日

小文・エッセー

- 10 「京都大学国際シンポジウム デイドロ、および18世紀のヨーロッパと日本」, 『フランス情報出版 (Bulletin du livre français)』, 紀伊國屋書店, 第9号, p. 20-22, 11月

1985(昭和60)年

著書

- 1 『デイドロ』, 『人類の知的遺産』第41巻, 講談社, 8+388-14 p., 5月10日

論文

- 2 A 《L'Encyclopédie de Diderot et le Japon》, *Colloque international DIDEROT (1713-1784) : Paris, Sèvres, Reims, Langres, Actes réunis et préparés par Anne-Marie Chouillet, Aux Amateurs de Livres*, p. 411-422.
→ 1975.1 ; 1975.2 ; 1992.1
- 3 E 「新しい文学史のひとつの可能性のために——18 世紀中葉のフランスにおける感性的状況を手掛かりとして——」, 『昭和 59 年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 京都大学, p. 1-16, 3月
- 4 D 「デイドロと日本——デイドロ没後二百年記念国際シンポジウムから——、十八世紀フランス最大の啓蒙思想家が日本の紹介を通して語りかけた言葉」, 『中央公論』, 中央公論社, 3月号, p. 296-307.

解説・月報・辞典項目

- 5 「ルソーと兆民との亀裂をめぐって——『社会契約論』と『民約訳解』——」, 『中江兆民全集』第15巻, 「月報」15, 岩波書店, p. 1-7, 8月30日
→ 1988.5 ; 1989.2 ; 1989.6 ; 1992.1
- 6 「18 世紀の光と闇」, 中川久定／高橋康也／坂部恵, 新岩波講座『哲学』15, 「月報」7, 岩波書店, p. 1-20, 11月8日

小文・エッセー

- 7 「高原の町の二つの駅前広場」, 『パブリック・スペース』, (財)日本交通文化協会, N° 7, p. 56,

9月

1986(昭和61)年

著書

- 1 『ディドロの〈現代性〉』, 河合文化教育研究所(河合ブックレット4), 76 p., 10月25日
→ 1994.1

論文

- 2 E 「19世紀ヨーロッパ人の異文明観——シーボルトの日本認識——」, 『昭和60年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 京都大学, p. 41-49, 3月
- 3 D 「日本の心と西欧の心——土居健郎『表と裏』———日本人フランス文学研究者の観点から——」, 『文学』, 岩波書店, 11月号, p. 1-16.
→ 1987.5

翻訳(共訳)

- 4 ピーター・ゲイ『自由の科学——ヨーロッパ啓蒙思想の社会史——』II, 中川久定/鷺見洋一/中川洋子/永見文雄/玉井通和(共訳), ミネルヴァ書房, 146+118 p., 12月20日
→ 1982.8

1987(昭和62)年

論文

- 1 C « Universalité de Diderot », *RDE*, N° 2, p. 7-18, avril
→ 1992.1
- 2 A « Le thème non-dit de la trilogie du *Rêve de d'Alembert* », *Le Siècle de Voltaire (Hommage à René Pomeau)*, Oxford, The Voltaire Foundation at the Taylor Institution, p. 693-700.
→ 1992.1 ; 1993.3
- 3 A « Les Portugais, le Japon et l'*Encyclopédie* », *Diderot, Comunicações apresentadas ao Colóquio internacional DIDEROT realizado em Lisboa, em 28 e 29 de Janeiro de 1985*, Lisboa, Sociedade Portuguesa de Estudos Século XVIII, p. 211-218.
- 4 D 「十八世紀フランスの四つの「島」——文学的転倒の場——」, 『思想』, 岩波書店, 6月号, p. 4-31.
→ 1989.5 ; 1990.10 ; 1992.1 ; 1992.6 ; 2002.1
- 5 D « L'envers et l'endroit », *Psychiatrie française*, Paris, Syndicat des Psychiatres Français et

l' Association Française de Psychiatrie, N° 3, p. 93-100, juin-juillet

→ 1986.3

6 F 「表層の知・深層の知」, 中川久定／山口昌男, 山口昌男対談集『知のルビコンを超えて』, 人文書院, 7月

→ 1980.2

7 D 「死を引き受けること／死を排除すること——小林『モーツァルト』とヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチの方法への序説』・『注解と余談』をめぐって——」, 『文学』, 岩波書店, 12月号, p. 102-123.

小文・エッセー

8 「観劇雑感(パリ, 1985-87年)——18世紀のこと・「で、そのあとどういうことになったか」ということ、など——」, 『日仏演劇協会会報』, 第7号, p. 1-5, 5月

9 「復刻版リシュレ『フランス語辞典』1759年版——新しい語彙と《lumières》の精神——」, 臨川書店, 11月

10 「第7回国際18世紀学会大会報告」, 『日本18世紀学会学会ニュース』, 第21号, 12月

1988(昭和63)年

編著

1 *Diderot — le XVIII^e siècle en Europe et au Japon*, Actes recueillis par Hisayasu Nakagawa, Nagoya, Centre Kawai pour la culture et la pédagogie, 314 p.

→ 1988.7 ; 1991.1

編著(共編)

2 『小学館・ロベール仏和大辞典』, 大賀正喜／高橋武智／中川久定／松田清／丸山圭三郎／山本淳一他(共編), 小学館, 2597 p., 12月10日

論文

3 D 《思想の言葉》「不安、欲望、そしてメランコリー——十八世紀フランス文学の心性史的風土」, 『思想』, 岩波書店, 2月号, p. 1-3.

4 C 《Rétablissement du déséquilibre et nouvelle temporalité : à propos de quelques métaphores du *Neveu de Rameau*》, *RDE*, N° 4, p. 48-59, avril

→ 1992.1

5 C 《Le clivage entre J.-J. Rousseau et Nakae Chōmin : à propos de la traduction en chinois

classique du *Contrat social* faite par Chômin : *Minyaku-yakukai*», *Études Jean-Jacques Rousseau*, Reims, Éditions « À L'ÉCART », N° 2, p. 158-175, mai
→ 1985.5 ; 1989.2 ; 1989.6 ; 1992.1

6 C « Jusqu'où suis-je moi ? », *Analytica* (Cahiers de recherche du Champ freudien), Paris, Navarin Editeur, N° 55 (Lacan et la chose japonaise), p. 85-94.

7 A « Vers l'espérance à travers la déception : le testament littéraire de Diderot », *Diderot — le XVIII^e siècle en Europe et au Japon*, p. 65-79.
→ 1988.1 ; 1991.4 ; 1992.1

8 「18 世紀フランスにおけるインカ帝国——ラス・カサスの目をとおして——」, 『現代思想』, 青土社, 臨時増刊, p. 124-128, 8 月

解説・月報・辞典項目

9 「解説」, 吉川幸次郎『読書の学』, 筑摩書房(筑摩叢書)323, p. 311-320, 5 月 20 日

10 「チェインバース『百科事典』1728 年刊初版本」, チェインバース『百科事典』1728 年初版復刻本 付録, 臨川書店, p. 1-4, 7 月

書評

11 « Diderot — *Essai sur les règnes de Claude et de Néron*, édition critique, annotée et présentée par Jean Deprun, Jean Ehrard, Annette Lorenceau, *Œuvres complètes*, Édition H. Dieckmann, J. Varloo, tome XXV (Idées VII), Hermann, 1986 », *RDE*, N° 4, p. 152-157, avril

12 「岩倉具忠著『ダンテ研究』」, 『創文』, 創文社, 10 月号(特集:ダンテ文学の地平), p. 8-12.

新聞

13 「使命を終えた二つの学校」, 「現代のことば」1, 京都新聞(夕刊), 8 月 13 日

14 「反「現代のことば」私は猫だ」, 「現代のことば」2, 京都新聞(夕刊), 10 月 4 日

15 「もう一度見失った足跡」, 「現代のことば」3, 京都新聞(夕刊), 11 月 19 日

小文・エッセー

16 《1987 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1 月号, p. 46.

17 《弔辞》, 『桑原武夫先生弔辞集』, p. 10-13, 4 月

18 「知的饗宴への誘い」, 『清水純一教授退官記念論文集 イタリア・ルネサンス文化——知の饗

宴——』広告文,『和書新刊速報』,紀伊國屋書店,4月

- 19 「宮本正清先生とロマン・ロラン」,『UNITÉ』,ロマン・ロラン研究所,16(特集:宮本正清追悼号),
p. 18-20, 11月16日

1989(平成元年)年

論文

- 1 A 「18世紀フランス大百科事典のなかの日本と九州——新井白石のフランス認識と比較しつつ」,
『「岡城築城800年祭」記念誌』,竹田市役所, p. 69-90, 3月23日
- 2 C 「中江兆民によるJ=J. ルソー『学問芸術論』の翻訳(『非開化論』上節)」,『比較文学年誌』,早
稲田大学比較文学研究室,第25号, p. 85-96, 3月25日
→ 1985.5 ; 1988.5 ; 1989.6 ; 1992.1
- 3 A 「啓蒙思想と第三身分——三つの政治的・社会的主導理念」,『フランス革命200年』,NHK・
ETV《市民大学講座》テキスト,日本放送協会,平成元年4-6月号, p. 30-42.
- 4 D 「悪魔がみたフランス革命——埋もれていた小説の発見と文学史的復権」,『エコノミスト』,毎日
新聞社,6月27日号, p. 82-90.
→ 1989.7 ; 1989.11 ; 1990.9 ; 1992.1 ; 2002.1
- 5 D 「転倒の島——シルヴァン・マレシャル『国王たちの最後の審判』をめぐって——」,『思想』,岩
波書店,7月号(特集:フランス革命と文学), p. 5-23.
→ 1987.4 ; 1990.10 ; 1992.1 ; 1992.6 ; 2002.1
- 6 C « À propos de la première traduction japonaise du *Discours sur les sciences et les arts* de J.-J.
Rousseau faite par Nakae Chômin : *Hi-kaika-ron (Contre les Lumières)* », *Études Jean-Jacques
Rousseau*, Reims, Éditions « À L'ÉCART », N° 3, p. 177-192, juillet
→ 1985.5 ; 1988.5 ; 1989.2 ; 1992.1
- 7 A « L'image de la Révolution dans le roman : *Le Nouveau Diable boiteux, tableau de Paris en
1797* » (version intégrale), *L'image de la Révolution française*, Communications présentées lors
du Congrès mondial pour le Bicentenaire de la Révolution, Paris, Sorbonne, 6-12 juillet 1989,
Oxford, Pergamon Press, Vol. III, p. 1929-1938.
→ 1989.4 ; 1989.11 ; 1990.9 ; 1990.14 ; 1992.1
- 8 A 「科学(科学思想)受容史のひとつの可能性——ヴォルテール/ルソー/デイドロ」,『講座科
学史1 西欧科学史の位相』,培風館, p. 350-352, 9月30日

9 D 「革命 200 周年のパリ——世界学会、三つの芝居、そしてピクピユスの墓地」, 『世界』, 岩波書店, 10月号, p.188-200.

10 C 《Trois Pascal dans la pensée de Diderot》(version définitive), *RDE*, N° 7, p. 23-41, octobre
→ 1991.3 ; 1992.1

11 A《Un bilan littéraire de la Révolution française : à propos du *Nouveau Diable boiteux, tableau de Paris en 1797*》(première version), *History of European Ideas*, Oxford, Pergamon Press, Vol. 11, p. 27-33.
→ 1989.4 ; 1989.7 ; 1990.9 ; 1992.1

解説・月報・辞典項目

12 「罪なくして十字架にかけられた者によって」, 『大岡昇平の世界』(『大岡昇平集』の解説集), 岩波書店, p. 173-196, 9月28日
→ 1983.3

新聞

13 「反「現代のことば」猫の国から」, 「現代のことば」4, 京都新聞(夕刊), 1月18日

14 「大岡昇平氏のこと」, 「現代のことば」5, 京都新聞(夕刊), 3月7日

15 「反「現代のことば」猫と魂」, 「現代のことば」6, 京都新聞(夕刊), 4月28日

16 「ハンガリーの知識人と自由」, 「現代のことば」7, 京都新聞(夕刊), 6月6日

小文・エッセー

17 《1988年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 11-12.

18 「叙述の双極性」, 根井雅弘『マーシャルからケインズへ』の帯, 名古屋大学出版会, 6月10日

19 「田中秀央著『ラテン文学史』覆刻版のために」, 『ラテン文学史』[覆刻]「栞」, 名古屋大学出版会, 6月10日

1990(平成2)年

論文

1 C 《Le Monde plein et le monde vide》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 41, p. 17, janv.-mars
→ 2005.1

2 C 「フランス革命とギロチン」, 『名城大学商学会会報』, 名城大学商学部, N° 115, p. 6-18, 3月

10 日

- 3 C « “Vie” et double “volonté” : deux conceptions d’être de l’homme et de la communauté humaine chez J.-J. Rousseau », *Études Jean-Jacques Rousseau*, Reims, Éditions « À L’ÉCART », N° 4, p. 28-52, avril
→ 1990.4 ; 1992.1
- 4 A 「『エミール』とルソー——ひとつの教育・政治理性批判」, 岩波講座『転換期における人間』, 岩波書店, 別巻『教育の課題』, p. 49-94, 5 月 30 日
→ 1990.3 ; 1992.1 ; 2002.1
- 5 D « Le théâtre de la Révolution de Romain Rolland », *Les Voix*, le magazine franco-japonais, N° 51, été 1990, p. 28-30.
→ 1990.6
- 6 D 「ロマン・ロランのフランス革命劇」, 『レ・ヴォア』, 51 号(夏), p. 29-30.
→ 1990.5
- 7 C « Traduire l’identité », *L’Âne*, le magazine freudien, N° 43, p. 11-12, juil.-sept.
→ 2005.1
- 8 D « 思想の言葉」 「身体の第一次性」, 『思想』, 岩波書店, 9 月号, p. 1-5.
- 9 C « L’image de la Révolution dans le roman : *Le Nouveau Diable boiteux, tableau de Paris en 1797* » (Version abrégée), 『仏文研究』, XXI, p. 1-8, 9 月 8 日
→ 1989.4 ; 1989.7 ; 1989.11 ; 1992.1
- 10 C « L’île, lieu du renversement de la relation maître-esclave : à propos de quelques pièces de théâtre françaises au siècle de la Révolution » (Version abrégée), 『仏文研究』, XXI, p. 9-20, 9 月 8 日
→ 1987.4 ; 1989.5 ; 1992.1 ; 1992.6
- 11 A 「風土・心性・都市計画／建築——あるいはヨーロッパ・ルソー・オスマン計画／一望監視監獄」, 『風土とまちづくり[その第一歩]』, 技術出版, p. 38-56, 10 月
- 12 F 「精神の病理 自己・役割・他者」, 木村敏／中川久定／廣松渉, 廣松渉『知のインターフェイス 廣松渉学際対話』, 青土社, 11 月
→ 1983.2
- 13 C « Lococentrisme », *L’Âne*, le magazine freudien, N° 44, p. 20-21, oct.-déc.

→ 2005.1

14 A《The Image of the Revolution in the Novel》, *L'Image de la Révolution française* (Abstracts), Oxford, Pergamon Press, Vol. IV.

→ 1989.7

解説・月報・辞典項目

15 「『鎖国』——完成と挫折」, 『和辻哲郎全集』, 第15巻, 「月報」15, 岩波書店, p. 1-13, 7月

16 「『世界周航記』の位置」, ブーガンヴィル『世界周航記』解説, 『17・18世紀大旅行記叢書』2, 岩波書店, p. 423-434, 11月7日

小文・エッセー

17 《1989年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 14.

18 「京都国際シンポジウム「フランス革命と文学」(1989秋)をめぐって」, 『学燈』, 丸善, 2月号, p. 14-21.

1991(平成3)年

編著

1 『デイドロ、18世紀のヨーロッパと日本』, 岩波書店, viii+303 p., 4月9日

→ 1988.1 ; 1991.4

論文

2 C 《Du partage religieux》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 45, p. 22-23, janv.-mars

→ 2005.1

3 A 《Trois Pascal dans la pensée de Diderot》 (Version abrégée), *Pascal, Port-Royal, Orient, Occident*, Actes du Colloque de l'Université de Tokyo, 27-29 septembre 1988, Paris, Klincksieck, p. 113-121.

→ 1989.10 ; 1992.1

4 A 「幻滅を通して希望へ——デイドロの文学的遺書」, 中川久定(編)『デイドロ、18世紀ヨーロッパと日本』, 岩波書店, p. 48-60, 4月9日

→ 1988.7 ; 1991.1 ; 1992.1

5 C 《La vérité sans sujet》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 46, p. 22-23, avril-juin

→ 2005.1

6 F 「日本人としての私の立場——外国文学・思想研究の意味と可能性」, 『京都会議』、京都会議事務局, p. 1-8, 7月1日

7 C 「地方の文化とその力——三浦梅園、安藤昌益、田能村竹田」, 『豊』, 大分放送, 第4号, p. 1, 8月12日

8 C 《La mort en fusion》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 47, p. 26-27, juil.-sept.
→ 2005.1

9 C 《Omnivoyance et autosuffisance : les Dieux rêvés de Diderot et Rousseau》, (Première version), 『仏文研究』, XXII, p. 13-21, 9月7日
→ 2015.1

10 C 「『理学沿革史』から『理学鉤玄』、『続一年有半』へ(初稿)——兆民の翻訳・補訳・「哲学的所見」——」, 『仏文研究』, XXII, p. 43-54, 9月7日

11 C 《Endroit et envers》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 48, p. 18-19, oct.-déc.
→ 2005.1

新聞

12 「国際シンポ「誤解と創造性」——“仕組まれた”「誤訳」 新しいイメージを構築」, 朝日新聞(夕刊), 4月12日

13 「故生島遼一先生のこと」, 京都新聞(朝刊), 8月27日

小文・エッセー

14 《1990年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 44-45.

15 「学者の世界、あるいは退屈な話」, 『IDE 現代の高等教育』, 民主教育協会, N° 327, p. 39-45, 8月

16 「国際高等研究所 国際シンポジウム: 誤解と創造性——19世紀日本の翻訳の問題」, 『仏文研究』, XXII, p. 41-42, 9月7日

17 《La France honore l'un des siens. Remise des insignes de chevalier dans l'Ordre des Palmes académiques à Monsieur Jo Yoshida, le 28 février 1991》, 3. Discours de Monsieur Hisayasu Nakagawa, 『仏文研究』, XXII, p. 82-83, 9月7日

1992(平成4)年

著書

- 1 *Des Lumières et du comparatisme. Un regard japonais sur le XVIII^e siècle*, Paris, P. U. F., Collection « Écriture », 383 p., novembre
→ 1975.1 ; 1975.2 ; 1984.2 ; 1985.2 ; 1985.5 ; 1987.1 ; 1987.2 ; 1987.4 ; 1988.4 ; 1988.5 ; 1988.7 ; 1989.2 ; 1989.4 ; 1989.5 ; 1989.6 ; 1989.7 ; 1989.10 ; 1989.11 ; 1990.3 ; 1990.4 ; 1990.9 ; 1990.10 ; 1991.3 ; 1991.4 ; 1992.6 ; 1993.3

編著

- 2 *La Révolution française et la littérature*, Colloque international du Bicentenaire 13-14 octobre 1989 à Kyoto, Actes recueillis et présentés par Hisayasu Nakagawa, Presses Universitaires de Kyoto, 281 p.
→ 1992.6

論文

- 3 A 「『フィガロの結婚』——ボーマルシェからモーツァルトへ」, 『モーツァルト全集』, 小学館, 第 7 卷, p. 72-91, 1 月 20 日
- 4 A 「十八世紀フランスの事典二種——『フランス文学三世紀』と『史実に基づく教育事典』——」, 『辞書を語る』, 岩波書店(岩波新書), p. 144-154, 1 月 21 日
- 5 A 「18 世紀フランスの食文化——料理と食事のシステム」, 山中時子／石毛直道(編)『食と文学』, フーディアム・コミュニケーション, p. 129-153, 5 月 15 日
- 6 A « L'île, lieu du renversement de la relation maître-esclave : à propos de quelques pièces de théâtre françaises au siècle de la Révolution » (Version définitive), *La Révolution française et la littérature*, p. 9-36.
→ 1987.4 ; 1989.5 ; 1990.10 ; 1992.1 ; 1992.2
- 7 C « Tirer sans viser ! », *L'Âne*, le magazine freudien, N° 50, p. 14-15, avril-juin
→ 2005.1
- 8 C « La Réfutation du christianisme par Hakuseki Arai », 『仏文研究』, XXIII, p. 31-43, 9 月 1 日
→ 1994.3 ; 1994.4
- 9 E « Nature et anti-nature chez Diderot : *Le Neveu de Rameau* », *Nature and Artifice in the World of Life* (Proceedings of the 1st Kyoto-Siena Symposium, Section : Humanities, Arts & Literature, University of Siena 8-11 June 1991), University of Siena, p. 52-66.
→ 2015.1
- 10 C « Du principe panoptique », *L'Âne*, le magazine freudien, N° 52, p. 14-15, oct.-déc.

→ 2005.1

11 D « Mozart et les Japonais : de deux réceptions critiques de l'œuvre de Mozart », *Annuario*, Roma, Istituto Giapponese di Cultura, The Japan Foundation, p. 7-17.

→ 1997.7

12 A « A propos de l' *Apologie du théâtre* de Marmontel : critique de la position de Rousseau à l'égard des comédies de Molière et de la femme », *Transactions of the Eighth International Congress on the Enlightenment*, Actes du Huitième congrès international des Lumières (Bristol, 21-27 juillet 1991), The Voltaire Foundation, p. 1302-1305.

→ 1993.1 ; 2015.1

解説・月報・辞典項目

13 「解説」, マルモンテル『インカ帝国の滅亡』, 岩波書店(岩波文庫), p. 363-395, 11月16日

小文・エッセー

14 《1991年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 53-54.

15 《20世紀日本の読書遍歴》, 『よむ』, 岩波書店, 5月号, p. 24.

16 「ストラスブール「モーツァルト世界学会」報告」, 『日本18世紀学会年報』, 第7号, p. 78-80, 6月

17 「新制京都大学文学部の終焉」, 『以文』, 第35号, 京大以文会, 10月

1993(平成5)年

論文

1 C « Rousseau et Marmontel : l'antagonisme de deux philosophes à travers la *Lettre sur les spectacles* et l' *Apologie du théâtre* », *Études de langue et littérature françaises*, SJLLF, N° 62, p. 3-15.

→ 1992.12 ; 2015.1

2 D 「永続的な魂の幸福を求めて」, 『無限大』, 日本アイ・ビー・エム株式会社, N° 93(特集:幸福の条件), p. 63-68, 3月25日

→ 1993.7

3 D 「『ダランベールの夢』三部作の言外の主題」, 『思想』, 岩波書店, 6月号, p. 4-27.

→ 1987.2 ; 1992.1 ; 1994.1

4 D « A la recherche de la littérature française », *Les Voix*, le magazine franco-japonais, N° 63, été 1993, p. 42-44.
→ 1993.5

5 D 「フランス文学を求めて——『啓蒙の時代と比較の視点』の紹介」, 『レ・ヴォア』, 63 号(夏), p. 42-44.
→ 1993.4

6 C « Un premier “Tour” », *L'Âne*, le magazine freudien, N° 54-55, p. 17-18, été
→ 2005.1

7 C « International Symposium on “Conditions of Happiness” » (Memorandum, Opening Remarks, Abstract, The Transformation of the Concept of Happiness in Eighteenth Century France : From Religious to Secular Understanding, Concluding Remarks), 『仏文研究』, XXIV, p. 47-60, 9月1日
→ 1993.2

8 D 「「未完」の論理——ルソーの未完成作品 2 篇をめぐって——」, 『文学』, 岩波書店, 季刊第 4 卷第 4 号(特集:未完の小説), p. 41-44, 10月12日
→ 2001.2

9 D « Je pense là où je suis », *Les Voix*, le magazine franco-japonais, N° 65, hiver 1993, p. 23.
→ 1993.10

10 D 「日本語とヨーロッパ語:二つの異なる哲学」, 『レ・ヴォア』, 65 号(冬), p. 24.
→ 1993.9

解説・月報・辞典項目

11 「「行為の直観」とその訳語をめぐって」, 『中村雄二郎著作集』第 7 卷, 「月報」7, 岩波書店, p. 3-6, 7月

書評

12 「青柳正規著『皇帝たちの都ローマ』」, 信濃毎日新聞, 7月25日
→ 1993.13

13 「青柳正規著『皇帝たちの都ローマ』」, 毎日新聞(東京版朝刊), 11月3日
→ 1993.12

新聞

14 「比較幸福学への展望——国際シンポジウムの開催にあたって」, 京都新聞(朝刊), 3月25日

- 15 「幸福を考える パートⅡ 現代社会のなかで…」, 中川久定／吉田民人／ムルハーン千栄子, 京都新聞(朝刊), 8月11日, 12日, 13日, 17日, 18日

小文・エッセー

- 16 《1992年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 60.
- 17 「はじめに」, 「大学院教育・研究のあり方(二)——人文科学の国際化——」, 『21世紀の文学部像——教育体制を中心に——』, 京都大学文学部, p. 1-2, 38-40, 4月
- 18 「ポルトガル18世紀学会第8回国際大会」報告, 『日本18世紀学会年報』, 第8号, p. 72-75, 6月
- 19 「国際18世紀学会執行委員会」報告, 『日本18世紀学会年報』, 第8号, p. 75-76, 6月
- 20 「春の朝の対話」, 『FLAME』, 大阪ガス株式会社, Vol. 13(特集:話す), p. 24, 9月

1994(平成6)年

著書

- 1 『啓蒙の世紀の光のもとで——デイドロと『百科全書』』, 岩波書店, viii+476 p., 8月30日
→ 1963.1 ; 1966.5 ; 1968.2 ; 1969.1 ; 1972.1 ; 1975.1 ; 1975.2 ; 1976.3 ; 1977.1 ; 1980.3 ;
1982.3 ; 1984.4 ; 1986.1 ; 1993.3 ; 1994.3 ; 1994.4

編著

- 2 *Problème de la traduisibilité des cultures*, Colloque international, 9-11 septembre 1991, Kyoto, Institut international des hautes études, 84 p.
→ 1994.4

論文

- 3 D 「新井白石によるキリスト教の紹介と反駁」, 『思想』, 岩波書店, 1月号, p. 88-101.
→ 1992.8 ; 1994.1 ; 1994.4
- 4 A 《Présentation et réfutation du christianisme par Hakuseki Arai》, *Problème de la traduisibilité des cultures*, p 1-18.
→ 1992.8 ; 1994.1 ; 1994.2 ; 1994.3 ; 2015.1
- 5 A 《The Picture Scroll Set *The Deer Hunt at Mount Miyake*》, 『三宅山御鹿狩絵巻』, 京都大学学術出版会, p. 258-261.

- 6 A 《Dialectique de la transition : rupture et transfert des mentalités au XVIII^e siècle en France》
 (京都大学文学部退官記念講義), 『中川久定教授研究業績一覧』, 京都大学文学部フランス
 語学フランス文学研究室, p. 43-58, 3 月
 → 1995.3
- 7 B 《Miroirs et réflexions. Études dix-huitiémistes》, 『京都大学文学部研究紀要』, 第 33 号,
 p. 129-366.
- 8 C 《Les confucianistes, philosophes tolérants dans la pensée de Voltaire》, *Revue internationale
 de philosophie*, P. U. F., p. 39-53, mars
- 9 C 《Réponse d'une philosophe du pays sauvage à un philosophe du pays civilisé : L' *Antidote* de
 Catherine II de Russie contre le *Voyage en Sibérie* de Chappe d'Auteroche》, *Études de langue
 et littérature françaises*, SJLLF, N° 64, p. 16-28.
 → 2003.6 ; 2015.1
- 10 E《De la fête religieuse à la fête profane au XVIII^e siècle》, *Comunicações apresentadas no VIII
 Congresso Internacional, A Festa, Lisboa, 18 a 22 de novembro de 1992*, Sociedade portuguesa
 de Estudos do Século XVIII, Universitária Editoria, Vol. III, p. 893-910.
 → 2015.1
- 11 E《Force et vertu heuristique des images : la métaphore du corps humain et du corps politique au
 XVIII^e siècle en France》, *The Development of the Science for the Improvement of Human Life*,
 (Proceedings of the 2nd Kyoto-Siena Symposium, Section : Humanities, Arts & Literature,
 Kyoto University, 27th September - 2nd October, 1993), Kyoto University, p. 80-89.
 → 2015.1
- 12 C 《Les arts japonais : juxtaposer pour enrichir》, *L'Âne*, le magazine freudien, N° 57-58,
 p. 20-22, été
 → 2005.1
- 13 D「西田幾多郎の哲学と文体——上田閑照『西田哲学』の読後に——」, 『創文』, 創文社, 9 月
 号, p. 19-22.
- 14 D「日本語による哲学——西田幾多郎をめぐる——」, 『創文』, 創文社, 11 月号, p. 19-22.
- 15 D「豊後の殿様と百科全書派」, 『中央公論』, 中央公論社, 11 月号, p. 332-345.
- 16 B《Une conclusion sur le temps des philosophes : La Harpe》(seconde version), 『文学・芸術・
 文化 近畿大学文芸学部論集』, 第 6 巻第 1 号, p. 67-92, 11 月

→ 1995.1 ; 2015.1

解説・月報・辞典項目

- 17 「「哲学者的航海者」ジェイムズ・クック——フランス人書評者フレロン父子の目をとおして——」,
『17・18 世紀大旅行記叢書』, 第 4 巻, 「月報」10, p. 5-8, 3 月 29 日

小文・エッセー

- 18 《1993 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1 月号, p. 58-59.

1995 (平成 7) 年

論文

- 1 C 《Une conclusion sur le temps des philosophes : La Harpe》(première version), *Études de Langue et Littérature Françaises*, SJLLF, N° 66, p. 61-74.

→ 1994.16 ; 2015.1

- 2 B 《Voltaire et la tolérance : le Japon et le modèle confucianiste》, 『文学・芸術・文化 近畿大学
文芸学部論集』, 第 6 巻第 2 号, p. 67-100, 3 月

→ 2015.1

- 3 B 《Deux dialectiques du XVIII^e siècle français : dialectique de la transition et dialectique de la
révolution》, 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第 7 巻第 1 号, p. 65-124, 8 月

→ 1994.6 ; 2015.1

- 4 C 《Diderot, homme des Lumières》, *RDE*, N° 18-19, p. 13-25, octobre

→ 2015.1

小文・エッセー

- 5 《1994 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1 月号, p. 68-69.

- 6 〈鼎談〉「幸福は学問の対象となり得るか——高等研の新たな提案——比較幸福学」, 「こうとうけ
ん IIAS」, 国際高等研究所, N° 9, 1995 Spring

1996 (平成 8) 年

編著

- 1 *Ici et ailleurs : le dix-huitième siècle au présent. Mélanges offerts à Jacques Proust*, Publié avec
Shin-ichi Ichikawa, Yoichi Sumi et Jun Okami, Tokyo, France Tosho, xvii+532 p., mars

→ 1996.3 ; 1996.10

論文

- 2 B « Lumières, clairs-obscur et contre-jours : quelques figures de la rencontre de deux cultures au XVIII^e siècle, 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第 7 卷第 2 号, p. 164-198, 1 月
- 3 A « Les fondements de la morale diderotienne, ou l'éthique naturelle à propos du *Supplément au Voyage de Bougainville* », *Ici et ailleurs : le dix-huitième siècle au présent*, p. 87-109.
→ 1996.1 ; 2015.1
- 4 C « *Dictionnaire philosophique* de Voltaire et *Dictionnaire anti-philosophique* de l'abbé Chaudon : deux thèses dans les années 1760 », *Études de Langue et Littérature Françaises*, SJLLF, N° 68, p. 31-45.
→ 2015.1
- 5 B « Hideo Kobayashi et Paul Valéry », 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第 7 卷第 3 号, p. 60-128, 3 月
→ 2015.1
- 6 B « L'accueil des Lumières occidentales au Japon dans la seconde moitié du XIX^e siècle », 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第 8 卷第 1 号, p. 109-222, 9 月
- 7 E « Les Japonais et les Hollandais : la rencontre de deux cultures au dix-huitième siècle », *SVEC*, N° 346-348 (Actes du Neuvième congrès international des Lumières, Münster 23-29 juillet 1995, 5.4 : Table Ronde : L'Extrême Orient), p. 1222-1226.
→ 2015.1
- 8 E « Les Lumières vues du Japon : vers une critique de la raison traductrice » (première version), *SVEC*, N° 346-348 (Actes du Neuvième congrès international des Lumières Münster 23-29 juillet 1995, 7.5 : Table Ronde : Les tendances et les institutions d'études des Lumières), p. 1593-1597.
→ 1998.6 ; 2015.1
- 9 E « Le monde est-il « l'ouvrage d'un ouvrier » ? Les réponses de d'Holbach, de l'abbé Bergier et de Voltaire », *Humanisms Facing Each Other* (Proceedings of the 3rd Kyoto-Siena Symposium, Section : Humanities, Arts & Literature, University of Siena, 4-8 July 1995), Edizioni Cadmo, p. 51-60.
→ 2015.1

解説・月報・辞典項目

- 10 « Préface », *Ici et ailleurs : le dix-huitième siècle au présent*, p. i-iv.

→ 1996.1

小文・エッセー

11 《1995年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 65-66.

12 《Trois allocutions prononcées à l'occasion de récents voyages en France》, 『仏文研究』, XXVII, p. 115-121, 9月1日

1997(平成9)年

編著

1 *Comparative Study of Happiness : l'idée de bonheur aujourd'hui en France et au Japon*, (Symposium : May 22-24, 1996, Hisayasu Nakagawa et al.), International Institut for Advanced Studies, IIAS Reports N° 1997-005, June
→ 1997.5 ; 1997.11 ; 1997.12

論文

2 B 《Le XVIII^e siècle Japonais》, 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第8巻第2号, p. 59-88, 1月
→ 2015.1

3 C 《Le bonheur dès à présent : Pascal et Locke interprétés par l'abbé Chaudon》, *Études de Langue et Littérature Françaises*, SJLLF, N° 70, p. 55-68.
→ 2015.1

4 B 《Sur la voie de l'affirmation : les cas de Diderot, Rousseau et Catherine II de Russie》, 『文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集』, 第8巻第3号, p.119-194, 3月

5 A 《A l'origine du Japon actuel : l'idée de bonheur chez Fukuzawa et Nakae》, *Comparative Study of Happiness*, p. 143-153.
→ 1997.1

6 E 《Le monde vu par un intellectuel japonais du XVIII^e siècle : *Informations sur l'Occident* de Hakuseki Araï》, *Abstracts*, (4th Kyoto-Siena Symposium, Section : Humanities, Arts & Literature, Kyoto University, Sept. 25th-27th, 1997), p. 11-12.

7 E 《Mozart, inspireur de deux critiques japonais contemporains : Hideo Kobayashi et Tetsutarō Kawakami》, *Mozart : Les chemins de l'Europe*, Actes du Congrès de Strasbourg 14-16 octobre 1991, publiés sous la direction de Brigitte Massin, Strasbourg, Editions du Conseil de l'Europe, p. 433-441.

→ 1992.11

8 E 《Le Japon selon Voltaire》, *Voltaire et ses combats*, Actes du congrès international Oxford-Paris 1994, sous la direction de Ulla Kölving et Christiane Mervaud, Oxford, Voltaire Foundation, p. 1391-1400.

9 C 「入江をめぐる散歩——ヴェルネの風景画——」, 『芸文京』, 京都市芸術文化協会(京都市芸術文化情報誌), 通巻 63 号, p. 2.

解説・月報・辞典項目

10 「解説——フランス篇」, 『ユートピア旅行記叢書 11 哲学者たちのユートピア』, 岩波書店, p. 473-495, 5 月 6 日

→ 1997.23 ; 1997.24

11 「シンポジウム フランスと日本における現代の幸福観 前書き」, *Comparative Study of Happiness*, p. iii-iv.

→ 1997.1

12 《Avant-propos》, *Comparative Study of Happiness*, p. v-vi.

→ 1997.1

13 項目《ディドロ ドニ Denis Diderot》, 『集英社 世界文学大辞典』3, 集英社, p. 46-52, 4 月

14 項目 《JAPON》, *Dictionnaire Européen des Lumières*, P. U. F., 1er édition, p. 615-620.

15 項目《百科全書》/《ブルッカー》, 『カント辞典』, 弘文堂, p. 440, 465.

新聞

16 「十八世紀のフランス絵画 ルーヴルの至宝(上)揺らぐジャンルの位階制」, 読売新聞(夕刊), 8 月 11 日

17 「十八世紀のフランス絵画 ルーヴルの至宝(下)不安そそるもの出現」, 読売新聞(夕刊), 8 月 13 日

小文・エッセー

18 《1996 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1 月号, p. 66-68.

19 「刊行にあたって」, 『十八世紀叢書』全一〇巻刊行案内(編集責任 中川久定/村上陽一郎), 国書刊行会, 3 月

- 20 「わが家の伝統 無形の伝統」, 『日本「名家・名門」総覧』, 別冊歴史読本事典シリーズ 31, 新人物往来社, 4月
- 21 「文学部における「西洋学」の教育・研究——世界市場に参入するために——」, 『IDE 現代の高等教育 問われる文学部』, 民主教育協会, N° 390, p. 47-53, 9月
- 22 「わが家の家紋 中川久留子」, 『日本「家紋由来」総覧』, 別冊歴史読本事典シリーズ 33, 新人物往来社, 9月

翻訳

- 23 ブリケール・ド・ラ・ディスメリー『タヒチの野生人からフランス人へ』, 『ユートピア旅行記叢書 11 哲学者たちのユートピア』, 岩波書店, p. 255-313, 5月6日
→ 1997.10
- 24 デイドロ『ブーガンヴィル航海記補遺』, 『ユートピア旅行記叢書 11 哲学者たちのユートピア』, 岩波書店, p. 315-394, 5月6日
→ 1970.7 ; 1997.10 ; 2007.11

1998(平成10)年

著書

- 1 『甦るルソー——深層の読解』, 岩波書店(特装版岩波現代選書), vii+316+17 p., 5月6日
→ 1977.2 ; 1977.3 ; 1977.4 ; 1978.2 ; 1983.1

論文

- 2 E « Comment jouir du bonheur dès à présent : l'article BONHEUR de l'abbé Pestré dans l'*Encyclopédie* », *Le Bonheur en littérature. Représentations de l'Autre et de l'Ailleurs*, Actes du colloque sur le Bonheur à l'Université de Corse, Corte, 23-24 mai 1997, Textes réunis et présentés par Belinda Cannone, Centre de Recherche des Lettres et Langues de l'Université de Corse, p. 45-56, janvier
→ 2015.1
- 3 A « De l'Au-delà à l'Ici-bas : L'abbé Chaudon et Deserres de la Tour », *Aufklärung als praktische Philosophie*. Werner Schneiders zum 65. Geburtstag, Herausgegeben von Frank Grunert und Friedrich Vollhardt, Sonderdruck, Tübingen, Max Niemeyer Verlag, p. 433-447, mars
→ 2015.1
- 4 E « Spiritualité et matière chez Diderot l'encyclopédiste », *La Matière et L'Homme dans l'Encyclopédie*, Actes du colloque de Joinville, 10-12 juillet 1995. Textes recueillis par

Sylviane Albertan Coppola et Anne-Marie Chouillet, Paris, Klincksieck, p. 23-30, avril
→ 2015.1

5 C « Descartes et Nishida : les présupposés linguistiques de deux philosophes », *Traduire : Traversare e Vedere*, sezione a cura di Brunella Antomarini, *Il Cannocchiale*, rivista di studi filosofici, Napoli, Edizioni Scientifiche Italiane, p. 81-98, gennaio-aprile
→ 1999.5 ; 2015.1

6 A « Les Lumières vues du Japon : vers une critique de la raison traductrice » (seconde version), *La Recherche dix-huitiémiste. Objets, méthodes et institutions (1945-1995)*, Edité par Michel Delon et Jochen Schlobach, Paris, H. Champion, p. 109-114.
→ 1996.8 ; 2015.1

小文・エッセー

7 「「花鳥図」一幅」, 『京都国立博物館だより』, 117号, 1月

8 《1997年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 71-72.

9 〈シンポジウム報告〉「比較幸福学・学術公開講演会「いま、幸福とは」」, 「こうとうけん IAS」, 国際高等研究所, N° 15, 1998 Summer

1999(平成11)年

編著

1 『比較幸福学』, 国際高等研究所(高等研報告書 1998-013), 245 p., 3月27日
→ 1999.7 ; 1999.8

2 『比較幸福学 資料編』, 国際高等研究所(高等研報告書 1998-005), 413 p., 3月27日
→ 1999.9 ; 1999.10 ; 1999.11 ; 1999.12 ; 1999.13 ; 1999.14

論文

3 E “Approaches to the Study of 18th Century Cities : in Search of New Possibilities for Comparative Urban Research” (「18世紀都市研究の新しい道——比較都市研究の可能性を求めて——」), *Cities in the 18th Century. Comparison between European and Japanese Cities* (International Symposium in Chiba University, December 15-16, 1998), p. 7-19, 5月

4 A « Genèse d’une idée diderotienne : la sensibilité comme propriété générale de la matière », *Être matérialiste à l’âge des Lumières. Hommage offert à Roland Desné*, P. U. F., « écriture », p. 199-217, juillet

- 5 D 「デカルトと西田——二つの哲学の言語的前提」, 岩田文昭訳, 『思想』, 岩波書店, 8月号, p. 4-19.
→ 1998.5
- 6 C « A propos d'un paravent japonais de Yûrin Doï : à la recherche de son modèle » (première version), 『仏文研究』, XXX, p. 51-64, 9月1日
→ 2006.9 ; 2015.1
- 7 E 「序論 研究会の目的と歴史」, 『比較幸福学』, p. 3-10.
→ 1999.1
- 8 E 「幸福の2つの形——幸福の1つの型の理論的考察のために——」, 『比較幸福学』, p. 15-33.
→ 1999.1
- 9 E 「キリスト教的幸福観から世俗的幸福観へ」, 『比較幸福学 資料編』, p. 19-32.
→ 1999.2
- 10 E 「ロベール・ミスライの幸福学——幸福の倫理学を目指して」, 『比較幸福学 資料編』, p. 43-49.
→ 1999.2
- 11 E 「現代の幸福観——中国を中心として——」, 『比較幸福学 資料編』, p. 133-137.
→ 1999.2
- 12 E 「比較幸福学におけるヒアリング結果の分析」, 『比較幸福学 資料編』, p. 161-166.
→ 1999.2
- 13 E 「フランスにおけるインタビュー調査の報告」, 『比較幸福学 資料編』, p. 269-280.
→ 1999.2
- 14 E 「フランスにおける調査の報告」, 『比較幸福学 資料編』, p. 335-340.
→ 1999.2
- 解説・月報・辞典項目
- 15 「魂の不死をめぐる——デイドロと『トウスクルム荘対談集』」, 『キケロー選集』7, 岩波書店, 「月報」2, p. 1-5, 7月
- 16 「解説2 『テリアメド』の位置——文学と自然誌とのほざ間」, 『ユートピア旅行記叢書 12 海底の国と地底の国編』, 岩波書店, p. 321-340, 12月22日
→ 1999.28

新聞

- 17 「一八世紀研究の現在——国際学会大会から見る問題点」, 朝日新聞(夕刊), 9月17日
- 18 「西洋古典と私たち(上) 盛況な出版 専門家だけのものではない」, 信濃毎日新聞, 9月17日
- 19 「西洋古典と私たち(下) 魅力の源 心を打つ美しさと恐ろしさ」, 信濃毎日新聞, 9月18日

小文・エッセー

- 20 《1998年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 76-77.
- 21 「エドワーズを、ラランドを、アルキエを、そして『フランス哲学・思想事典』を」, 『フランス哲学・思想事典』, 弘文堂, 1月
- 22 「古典学の再構築に向けて」, 『古典学の再構築』, 神戸学院大学人文学部, 第3号, 3月
- 23 「古典と教養教育——異文化古典間の対話を目指すために——」, 『IDE 現代の高等教育』, 民主教育協会, N° 407, 4-5月
- 24 「佐々木丞平・正子著『古画総覧』の出版を称える」, 『古画総覧』, 国書刊行会, 6月
- 25 〈鼎談〉「比較幸福学」——招来展望を探る～「不幸」の問題も視野に」, 井口洋夫／中川久定／吉田民人, 「こうとうけん IIAS」, 国際高等研究所, N° 17, 1999 Summer
- 26 「ダブリンの残照」, 『みすず』, みすず書房, 10月号
- 27 「あの頃のこと、そしてこれらかもまた」, 『国際高等研究所 一五年の歩み』, 国際高等研究所, 11月

翻訳(共訳)

- 28 マイエ著『テリアメド』, 中川久定／多賀茂(共訳), 『ユートピア旅行記叢書 12 海底の国と地底の国編』, 岩波書店, p. 189-310, 12月22日
→ 1999.16

2000(平成12)年

論文

- 1 E 《La Chine et le Japon ou la Morale sociale dans l'*Histoire des deux Indes*》, Raynal. *De la polémique à l'histoire*, Texte réunis et présentés par Gille Bancarel et Gianluigi Goggi, SVEC, 2000 : 12, (Colloque international : Bicentenaire de l'abbé Guillaume-Thomas Raynal, 21-24

mars 1996, Société Guillaume-Thomas Raynal, Rodez, France), p. 197-204.

→ 2015.1

2 C 「ラ・メトリーとモンペリエ学派との間——デイドロの定式「物質の一般的特性としての感性」とその周辺」, 『圭迪』, 京都府医師会, 第 18 号, 4 月

3 E 「「一般古典学」と「個別古典学」」, 『古典学の再構成』, 文部省科学研究費特定領域研究報告書, 11 月

解説・月報・辞典項目

4 「解説2 フランスのユートピア旅行記——18 世紀への展開——」, 『ユートピア旅行記叢書 10 啓蒙の時代初期』, 岩波書店, p. 309-342, 9 月 27 日

→ 2002.1

小文・エッセー

5 《1999 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1 月号, p. 71-72.

6 「先端科学技術と人間の生き方」, 『せんたん』, 奈良先端科学技術大学院大学, Vol. 8, N° 3, 1 月

7 「読むことと書くこと——一八世紀フランス研究者の場合——」, 『これからどうなる 21 予測・主張・夢』, 岩波書店, 1 月 20 日

8 「文化財の保存と修復の根底にあるもの」, 『文化財の保存と修復2 博物館・美術館の果たす役割』, 文化財保存修復学会, p. 17-26, 6 月

9 〈座談会〉「転換期における古典の役割」, 『文学』, 岩波書店, 7 月号

10 「フランスの絵画から日本の屏風絵へ——人文科学の新しい形態を求めて——」, 『盛和スクラーズソサエティ 会報』, 稲盛財団, N° 4, 8 月

2001(平成 13)年

論文

1 E 《 Le législateur chez Rousseau et Diderot 》, *Jean-Jacques Rousseau, politique et nation*, Actes du II^e Colloque international de Montmorency (27 septembre-4 octobre 1995), Présentation générale de Robert Thiéry, Paris, H. Champion, p. 109-115.

→ 2015.1

2 A 《 La logique de l'inachevé d' *Emile et Sophie* 》, *Vérité et littérature au XVIII^e siècle. Mélanges*

rassemblés en l'honneur de Raymond Trousson, Paris, H. Champion, p. 223-233.

→ 1993.8 ; 2015.1

3 A « Elie Fréron, critique au service du catholicisme : entre insistance et réticence », *Elie Fréron, polémiste et critique d'art*, Presses Universitaires Rennes, « Collection Interférences », p. 75-86.

→ 2015.1

小文・エッセー

4 《2000年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 73-74.

5 「ハンガリー科学アカデミー訪問報告」, 『日本学士院紀要』, 第55巻第3号, p. 241-252, 3月30日

6 〈座談会〉「「高等研のゆくえ」——知が触れ合い、知が生まれる場——」, 「こうとうけん IAS」, 国際高等研究所, N° 20, 2001 Summer

2002(平成14)年

著書

1 『転倒の島——18世紀フランス文学史の諸断面』, 岩波書店, vi+231+xi p., 7月23日

→ 1987.4 ; 1989.4 ; 1989.5 ; 1990.4 ; 2000.4

論文

2 A « A propos d'une nouvelle conception de l'immortalité : l'abbé Bergier contre d'Holbach et Diderot », *Sciences, musiques, Lumières. Mélanges offerts à Anne-Marie Chouillet*, Publiés par Ulla Kölving et Irène Passeron, Ferney-Voltaire, Centre international d'étude du XVIII^e siècle, p. 359-366.

→ 2015.1

3 C « J.-J. Rousseau et J.-G. Le Franc de Pompignan : La « Profession de foi du vicaire savoyard » et « De la religion civile » critiqués par l' *Instruction pastorale* », *Dix-huitième siècle*, P. U. F., N° 34, p. 67-76, février

→ 2015.1

小文・エッセー

4 《2001年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1月号, p. 81-82.

5 〈副所長抱負〉「時限的「共同研究」の可能性」, 「IAS NEWSLETTER」, 国際高等研究所, N° 28, June 2002

- 6 〈公開講演会講師〉「魂は死後どうなるのか——18 世紀フランスの秘められた一つの論争——」,
「こうとうけん IIAS」, 国際高等研究所, N° 21, 2002 Winter

2003(平成 15)年

論文

- 1 C “The Human Experience in Space — A school to create True Cosmopolitans”, *Sciences & Technology in Japan*, Three “I” Publications, N° 85, Vol. 22, p. 23-26.
→ 2015.1
- 2 E 「衰退するアリストテレスの影響力——フランスにおける文学研究と文学史の成立——」, 『論集
近現代社会と古典 文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究 A118B03「近現代社会と
古典」班研究報告 VIII』, p. 28-37.
- 3 A « Trois autoportraits d’un dix-huitiémiste japonais », *Être dix-huitiémiste*, Témoignages
recueillis par Sergueï Karp, Ferney-Voltaire, Centre international d’étude du XVIII^e siècle,
p. 92-138.
→ 2004.1 ; 2007.1
- 4 A « Frédéric le despote et Diderot le philosophe. L’*Examen de l’Essai sur les préjugés* critiqué
par la *Lettre de M. Denis Diderot sur l’Examen de l’Essai sur les préjugés* », *L’Allemagne et la
France des Lumières. Mélanges offerts à Jochen Schlobach par ses élèves et amis*, Études
réunies par Michel Delon et Jean Mondot, H. Champion, p. 367-381.
→ 2015.1
- 5 C « La mort volontaire au siècle des Lumières : le courage philosophique opposé au courage
religieux » (Communication donnée au 10^e Congrès international des Lumières, Dublin, 29
juillet 1999), 『仏文研究』, XXXIV, p. 1-13, 9 月 10 日
→ 2015.1
- 6 A « L’*Antidote* de Catherine II de Russie contre le *Voyage en Sibérie* de Chappe d’Auteroche :
Nécessité d’une étude comparatiste », *Centre(s) et périphérie(s). Les Lumières de Belfast à
Beijing*, Edité par Marie-Christine Skuncke, Paris, H. Champion, p. 47-54.
→ 1994.9 ; 2015.1

小文・エッセー

- 7 《2002 年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1-2 月合併号, p. 72-73.
- 8 「大学問題雑考——「旧制度」下ヨーロッパの大学制度を手がかりに」, 『人環フォーラム』N° 13、

京都大学大学院人間・環境学研究科, p. 22-27.

- 9 「本の森の中で——第1回 フランコ・ヴェントゥーリ『デイドロの青春時代(1713-1753)』」, 「文
教研ればと」, 河合文化教育研究所, Vol. 2
- 10 「本の森の中で——第2回 アレクシ・ド・トクヴィル『ルイ 15 世の治世に関する哲学的歴史』2
巻」, 「文教研ればと」, 河合文化教育研究所, Vol. 3
- 11 〈研究代表者報告〉「『一つの世界』の成立とその条件——鎖国時代の日本とヨーロッパ——」,
「IIAS NEWSLETTER」, 国際高等研究所, N° 32, May 2003
- 12 〈座談会〉「高等研の「責務」増す——あくまでアカデミズムの拠点に——」, 「こうとうけん IIAS」,
国際高等研究所, N° 24, 2003 Autumn
- 13 〈弔辞〉「故吉川逸治会員追悼の辞」, 『日本学士院紀要』, 第 58 巻第 1 号, p. 53-57, 9 月 9 日
- 14 〈仏国モンペリエ・ポール・ヴァレリー大学・名誉教授ジャック・プルースト記念講演会報告〉「創
造的な誤解はありうるか? ——異文化交流の場合——」, 「IIAS NEWSLETTER」, 国際高等研
究所, N° 35, November 2003

2004(平成 16)年

著書

- 1 *Trois autoportraits d'un dix-huitiémiste japonais*, Institut Kawai pour la culture et l'éducation,
77 p.
→ 2003.3 ; 2007.1

論文

- 2 E « Il importait beaucoup que le prince qui tenait le sceptre le gardât... » : Diderot et
Catherine II », *Les Lumières européennes et la civilisation de la Russie*, Actes du colloque
international, Saratov, 2-6 septembre 2001, Université d'Etat N. G. Tchernychevski, Saratov ;
Institut d'histoire universelle de l'Académie des sciences de Russie, p. 174-178.
→ 2015.1
- 3 C « Comparaison n'est pas raison, mais lecture à double éclairage » (Communication donnée à
l'Université Paris VII, 30 mai 2000), 『仏文研究』, XXXV, p. 1-9, 9 月 15 日

解説・月報・辞典項目

- 4 「西田とデカルト——小林道夫氏への返信——」, 『西田幾多郎全集』第 12 巻, 岩波書店, 「月
報」11, p. 2-11.

小文・エッセー

- 5 「国際学士院連合第七七回総会報告」(共同執筆・原実), 『日本学士院紀要』, 第58巻第3号, 3月31日
- 6 《2003年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1-2月合併号, p. 45-46.
- 7 「本の森の中で——第3回 イザック・ド・ボーズブル『マニとマニ教に関する批判的歴史』2巻」, 「文教研れぽーと」, 河合文化教育研究所, Vol. 5

2005(平成17)年

著書

- 1 *Introduction à la culture japonaise : essai d'anthropologie réciproque*, Paris, P. U. F., 101 p.
→ 1990.1 ; 1990.7 ; 1990.13 ; 1991.2 ; 1991.5 ; 1991.8 ; 1991.11 ; 1992.7 ; 1992.10 ;
1993.6 ; 1994.12

論文

- 2 C « Diderot, Rousseau et autres « incroyables » au service du catholicisme : à propos du *Déisme réfuté par lui-même* de l'abbé Bergier », *RDE*, N° 39, p. 157-176, octobre
→ 2015.1
- 3 C « Comment faire sa propre apologie : le recours à l'alter ego chez Rousseau et le recours à l'historien chez Diderot » (Communication donnée sous le titre « *Dialogues et Essai sur Sénèque* : qui parle et à qui ? » au colloque « L'Écriture de moi comme dialogue : à qui s'adresse l'autobiographie », Institut franco-japonais du Kansai, 15-16 avril 2005), 『仏文研究』, XXXVI, p. 1-9, 11月10日
→ 2009.4 ; 2015.1

解説・月報・辞典項目

- 4 「解説 林達夫の立っている場所」, 林達夫『歴史の暮方、共産主義的人間』, 中央公論社(中公クラシックス), p. 1-54.
- 5 「18世紀フランスの仏訳『哲学者セネカ著作集』とセネカの伝記に託したデイドロの偽装された自伝」, 『セネカ哲学全集』第1巻, 岩波書店, 「月報」2, p. 1-7, 7月

小文・エッセー

- 6 《2004年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1-2月合併号, p. 25-26.

2006(平成18)年

編著(共編)

- 1 『十八世紀における他者のイメージ——アジアの側から、そしてヨーロッパの側から』, 中川久定／ヨヘン・シュローバハ(共編), 河合文化教育研究所, x+370 p., 3月1日
→ 2006.8 ; 2006.9 ; 2007.2

論文

- 2 E 「「恋愛」の永遠化をめぐる——『トリストラン・イズー物語』と『曾根崎心中』——」, 『東西の恋愛文芸』(高等研報告書 0501), 国際高等研究所, p. 27-28.
- 3 E 「『哲学者テレーズ』をめぐる」, 『東西の恋愛文芸』, p. 41-42.
- 4 E 「スタンダールの小説における愛の表現——自覚されない恋の表現／自覚された恋の表現——」, 『東西の恋愛文芸』, p. 49-50.
- 5 E 「ルソーの「恋愛観」——恋愛心理の構造と政治体制の構造——」, 『東西の恋愛文芸』, p. 55-56.
- 6 E 「利害による結婚と恋愛による結婚」, 『東西の恋愛文芸』, p. 69-70.
- 7 E 「恋愛の永遠化と空無化——『曾根崎心中』と『本格小説』——」, 『東西の恋愛文芸』
- 8 A 「日本の鎖国を前にしたケンペル、フランスの哲学者たち、およびカント——十八世紀ヨーロッパ思想における「摂理」と「商業の精神」——」, 『十八世紀における他者のイメージ——アジアの側から、そしてヨーロッパの側から』, p. 51-70, 3月1日
→ 2006.1 ; 2007.4
- 9 A 「土井有隣の屏風絵について——モデルを求めて——」, 『十八世紀における他者のイメージ——アジアの側から、そしてヨーロッパの側から』, p. 319-338, 3月1日
→ 1999.6 ; 2006.1 ; 2007.5
- 10 A « Théâtre à l'Hermitage : petites pièces de Catherine II de Russie », *In memoriam Jo Yoshida*, (『仏文研究』吉田城先生追悼特別号), 京都大学フランス語学フランス文学研究会, p. 109-126, 6月20日
→ 2015.1
- 11 C « Les villes chinoises et japonaises au 18^e siècle : l'*Histoire moderne* de l'abbé de Marcy », *Dix-huitième siècle*, N° 38, p. 391-406.
→ 2015.1

小文・エッセー

12 《2005年読書アンケート》, 『みすず』, みすず書房, 1-2月合併号, p. 65.

2007(平成19)年

著書

1 *Mémoires d'un « moraliste passable » : le pied gauche et la vie droite d'un professeur japonais*, Ferney-Voltaire, Centre international d'étude du XVIIIe siècle, 172 p.
→ 2003.3 ; 2004.1

編著(共編)

2 *L'image de l'autre vue d'Asie et d'Europe*, Actes des colloques internationaux des 21 et 22 novembre 1997 à Nagoya et du 17 septembre 1998 à Kyôto, Japon, édité par Hisayasu Nakagawa et Jochen Schlobach, Paris, H. Champion, 325 p.
→ 2006.1 ; 2007.4 ; 2007.5

3 『「一つの世界」の成立とその条件』, 国際高等研究所(高等研報告書 0701), 251 p., 12月20日
→ 2007.6 ; 2007.7

論文

4 A 《Kæmpfer, les philosophes français et Kant face à la fermeture du Japon : « providence » et « esprit de commerce » dans la pensée européenne du XVIII^e siècle », *L'image de l'autre vue d'Asie et d'Europe*, p. 49-65.
→ 2006.8 ; 2007.2 ; 2015.1

5 A 《A propos d'un paravent japonais de Yûrin Doï : à la recherche de son modèle » (version définitive), *L'image de l'autre vue d'Asie et d'Europe*, p. 275-290.
→ 2006.9 ; 2007.2 ; 2015.1

6 E 「序章」, 『「一つの世界」の成立とその条件』, p. 5-33, 12月20日
→ 2007.3

7 E 「終章 前記八論文を統合的観点から読みとおすために」, 『「一つの世界」の成立とその条件』, p. 241-243, 12月20日
→ 2007.3

解説・月報・辞典項目

8 「解説」, 『シリーズ 世界周航記』2(ブーガンヴィル『世界周航記』、デイドロ『ブーガンヴィル航海記補遺』), 岩波書店, p. 215-225, 4月18日

→ 2007.11

- 9 項目《ダランベール》、《デイドロ》、『世界大百科事典』(改訂新版), 平凡社, 9月

小文・エッセー

- 10 〈弔辞〉「故林巳奈夫会員追悼の辞」, 『日本学士院紀要』, 第61巻第2号, p. 143-147, 1月10日

翻訳

- 11 デイドロ『ブーガンヴィル航海記補遺』, 『シリーズ 世界周航記』2(ブーガンヴィル『世界周航記』、デイドロ『ブーガンヴィル航海記補遺』), 岩波書店, p. 153-214, 4月18日
→ 1997.24 ; 2007.8

2008(平成20)年

論文

- 1 A 《Jeunesse de Jacques Proust》, *Sillage de Jacques Proust. France, Diderot, l'Encyclopédie & autres études*, Ferney-Voltaire, Centre international d'étude du XVIII^e siècle, Textes réunis par Marie Leca-Tsiomis, p. 33-41.
→ 2008.2
- 2 「ジャック・プルーストの青年時代」, 『十八世紀研究者の仕事 知的自伝』, セルゲイ・カルプ(編著), 中川久定/増田真(監訳), 法政大学出版局, p. 365-381, 12月22日
→ 2008.1 ; 2008.4

解説・月報・辞典項目

- 3 「「アリストパネースは……」, 「メナンドロスは……」, あるいは「エピカルモスは……」, 「ピレーモーンは……」」, 『ギリシア喜劇全集』第1巻, 「月報」1, p. 1-5, 7月25日

翻訳(共監訳)

- 4 『十八世紀研究者の仕事 知的自伝』, セルゲイ・カルプ(編著), 中川久定/増田真(監訳), 法政大学出版局, 396 p., 12月22日
→ 2008.2

2009(平成21)年

論文

- 1 E 「月への空想旅行記、および思考による時間・空間への旅」, 『宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ』, 国際高等研究所/宇宙航空研究開発機構(高等研報告書 0804), p. 24-58, 3月

- 2 E 「人間の宇宙への進出をめぐる」(7つの対談), 『宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ』, p. 372-388.
- 3 E “Ordinary People in Space : Humanistic Considerations for the Space Station”, 『宇宙問題への人文・社会科学からのアプローチ』, p. 403-409.
- 4 C « Comment faire sa propre apologie : le recours à l’alter ego chez Rousseau et le recours à l’historien chez Diderot », *Études Jean-Jacques Rousseau*, Vol. 17 (Dialogues de Rousseau), Revue publiée avec le concours du CNL, Musée J.-J. Rousseau-Montmorency, p. 65-73.
→ 2005.3 ; 2015.1

解説・月報・辞典項目

- 5 「解説 哲学的思考という道をたどる歩み 素人の読者に対する素人の道連れからの語りかけ」, 石川文康『カントはこう考えた——人はなぜ「なぜ」と問うのか』, 筑摩書房(ちくま学芸文庫), p. 270-280.

小文・エッセー

- 6 〈座談会〉「高等研の8年を振り返る」, 「IIAS NEWSLETTER」, 国際高等研究所, N° 64, February 2009
- 7 『当節三題漸(二〇〇八年末)』, 「文教研ればと」, 河合文化教育研究所, 2009 春
- 8 〈報告〉「東京シンポジウム「宇宙と人間」開催」, 「IIAS NEWSLETTER」, 国際高等研究所, N° 65, April 2009
- 9 「六世紀昔にさかのぼる遠くて近いご縁」, 『教育・文化の人——塩川利員追悼集——』, 大坂青山学園発行, 7 月

2010(平成 22)年

小文・エッセー

- 1 「「退屈な話」『六号病棟・退屈な話、他五篇』チェーホフ著／松下裕訳, 『わたしが選んだこの一冊』, 河合文化教育研究所
- 2 「小さな書齋の内部を巡る旅——デイドロ著『古い部屋着に対する哀惜の思い』を思い浮かべながら」, 「文教研ればと」, 河合文化教育研究所, 2010 春

2011(平成 23)年

小文・エッセー

- 1 『『野火』大岡昇平著』、『わたしが選んだこの一冊』, 河合文化教育研究所
- 2 「フルシチョフ、マリノフスキー、コシヤリー、そしてもう一人——私の人生を通り過ぎていったヨーロッパ現代史の3人と、無名の女性バスガイド」, 「文教研れぽーと」, 河合文化教育研究所, 2011 春

2012(平成 24)年

論文

- 1 A 《 *Dialogues et Essai sur Sénèque : qui parle et à qui?* », *Les Destinataires du moi : altérités de l'autobiographie*, Sous la direction de Shojiro Kuwase, Makoto Masuda et Jean-Christophe Sampieri, Éditions universitaires de Dijon, 2012, p. 113-131.

小文・エッセー

- 2 「主任研究員・特別研究員 このごろ思うこと:近況——28 歳から 81 歳まで」, 「文教研の葉」, 河合文化教育研究所, 2012 夏, p. 3.
- 3 「カラマーゾフの兄弟(1、2、3、4、5)ドストエフスキー著(訳/亀山郁夫)」, 『わたしが選んだこの一冊』, 河合文化教育研究所

2013(平成 25)年

小文・エッセー

- 1 〈弔辞〉「故西田龍雄会員追悼の辞」, 『日本学士院紀要』, 第 67 巻第 3 号, p. 163-166, 3 月 29 日
- 2 「主任・特別研究員の近況」, 「文教研の葉」, 河合文化教育研究所, 2013 秋, p. 4.
- 3 「『『コーラン』を読む』井筒俊彦著」, 『わたしが選んだこの一冊』, 河合文化教育研究所

翻訳

- 4 デイドロ「テレンティウス頌」, 『デイドロ著作集』第 4 巻(美学・美術 付・研究論集), 法政大学出版局, p. 73-101, 9 月 30 日
- 5 「デイドロとファルコネの往復書簡(抄)」, 『デイドロ著作集』第 4 巻(美学・美術 付・研究論集), 法政大学出版局, p. 103-144, 9 月 30 日

校注

- 6 フェヌロン/宮島春松訳「歐洲小説哲烈禍福譚(てれまくかふくものがたり)」中川久定/峯村

至津子／秋山伸子校注,『新日本古典文学大系 明治編』第14巻(翻訳小説集 一),岩波書店, p. 1-142, 1月25日

2014(平成26)年

小文・エッセー

- 1 「主任・特別研究員の近況」,「文教研の葉」,河合文化教育研究所,2014春,p.4.
- 2 『哲学の三つの伝統 他十二編』野田又夫著,『わたしが選んだこの一冊』,河合文化教育研究所

2015(平成27)年

著書

- 1 *L'Esprit des Lumières en France et au Japon*, Paris, H. Champion, 833 p.
Première Partie : L'Esprit des Lumières en France
 1. Diderot, homme des Lumières → 1995.4
 2. Nature et anti-nature chez Diderot, *Le Neveu de Rameau* → 1992.9
 3. Spiritualité et matière chez Diderot, l'encyclopédiste → 1998.4
 4. Les fondements de la morale diderotienne, ou l'éthique naturelle : à propos du *Supplément au voyage de Bougainville* de Diderot → 1996.3
 5. L'abbé Bergier contre d'Holbach et Diderot : à propos d'une nouvelle conception de l'immortalité → 2002.2
 6. Frédéric le despote et Diderot le philosophe → 2003.4
 7. Diderot et Catherine II de Russie → 2004.2
 8. La logique de l'inachevé d'*Émile et Sophie* → 2001.2
 9. Diderot, Rousseau et autres « incrédules » au service du catholicisme : à propos du *Déisme réfuté par lui-même* de l'abbé Bergier → 2005.2
 10. Rousseau et Le Franc de Pompignan : la « Profession de foi du vicaire savoyard » et « De la religion civile » critiqués par l'*Instruction pastorale* → 2002.3
 11. Les deux rêves de Diderot et de Rousseau : omnivoyance et autosuffisance → 1991.9
 12. Le législateur chez Rousseau et Diderot → 2001.1
 13. Comment faire sa propre apologie : le recours à l'alter ego chez Rousseau et le recours à un philosophe romain chez Diderot → 2005.3 ; 2009.4
 14. Voltaire et la tolérance : le Japon et le modèle confucianiste → 1995.2
 15. Le *Dictionnaire philosophique* de Voltaire et le *Dictionnaire anti-philosophique* de l'abbé Chaudon : deux thèses des années 1760 → 1996.4
 16. Voltaire, d'Holbach et l'abbé Bergier : le monde est-il « l'ouvrage d'un ouvrier » ? → 1996.9
 17. Théâtre à l'Hermitage : petites pièces de Catherine II → 2006.10

18. Réponse d'un philosophe du pays sauvage à un philosophe du pays civilisé : l'*Antidote* de Catherine II contre le *Voyage en Sibérie* de Chappe d'Autroche → 1994.9 ; 2003.6
 19. De la fête religieuse à la fête civile en France au XVIII^e siècle → 1994.10
 20. Éloge du théâtre français au siècle de la Révolution suivi de l'*Apologie du théâtre* de Marmontel → 1992.12 ; 1993.1
 21. Les villes chinoises et japonaises au XVIII^e siècle : l'*Histoire moderne* de l'abbé de Marcy → 2006.11
 22. À propos de l'*Histoire moderne* de l'abbé de Marcy ; approches pour une étude des villes du XVIII^e siècle
 23. Le bonheur dès à présent : Pascal et Locke interprétés par l'abbé Chaudon → 1997.3
 24. De l'au-delà à l'ici-bas : l'abbé Chaudon et Deserres de la Tour → 1998.3
 25. L'article BONHEUR de l'abbé Pestre dans l'*Encyclopédie* : comment jouir du bonheur dès à présent → 1998.2
 26. Élie Fréron, critique au service du catholicisme : entre insistance et réticence → 2001.3
 27. La mort volontaire au siècle des Lumières : le courage philosophique opposé au courage religieux → 2003.5
 28. Un miroir tendu aux encyclopédistes : remarque préliminaire aux *Préjugés légitimes* de Chaumeix
 29. La Harpe ou une conclusion sur le temps des philosophes → 1994.16 ; 1995.1
 30. Deux dialectiques du XVIII^e siècle français : dialectique de transition et dialectique de rupture → 1995.3
 31. Force et vertu heuristique des images : la métaphore du corps humain et du corps politique au XVIII^e siècle en France → 1994.11
- Deuxième Partie : L'Esprit des Lumières au Japon
1. Le Japon du XVIII^e siècle → 1997.2
 2. Présentation et réfutation du christianisme par Arai Hakuseki → 1994.4
 3. Kämpfer, les philosophes français et Kant face à la fermeture du Japon : « Providence » et « Esprit de commerce » dans la pensée européenne du XVIII^e siècle → 2007.4
 4. Japonais et Hollandais : rencontres de deux cultures au XVIII^e siècle → 1996.7
 5. La Chine et le Japon ou la morale sociale dans l'*Histoire des deux Indes* de l'abbé Raynal → 2000.1
 6. À propos d'un paravent japonais de Doi Yûrin : à la recherche de son modèle → 1999.6 ; 2007.5
 7. Occidentalisation de la prison japonaise dans la seconde moitié du XIX^e siècle
 8. Fukuzawa Yukichi et les études anglaises
 9. Nakae Chômin et les études françaises
 10. Nakae Chômin : Traducteur et auteur
 11. Descartes et Nishida : les présupposés linguistiques de deux philosophies → 1998.5
 12. Kobayashi Hideo et Paul Valéry → 1996.5
 13. D'une langue à l'autre ou le voyage vers soi : la traduction de *Monsieur Teste* par

Kobayashi Hideo

14. Les Lumières vues du Japon : vers une « critique de la raison traductrice » → 1996.8 ; 1998.6
15. L'expérience humaine dans l'espace : une « école » pour créer de vrais cosmopolites → 2003.1

小文・エッセー

- 2 「一瞬の映像をめぐって——自らを犠牲にすること——」, 「文教研の葉」, 河合文化教育研究所, 2015 夏, p. 2.
- 3 『『ドイツの悲歌』リルケ著 手塚富雄訳』, 『わたしが選んだこの一冊』, 河合文化教育研究所

2016(平成 28)年

小文・エッセー

- 1 〈弔辞〉「故小林道夫会員追悼の辞」, 『日本学士院紀要』, 第 70 巻第 3 号, p. 170-171, 3 月 30 日

その他

- 2 『「宇宙の人間学」研究会記録(その1)』, 「序章第2節 なぜ「宇宙の人間学か——そもそもの考え方」, 「宇宙の人間学」研究会事務局, 宇宙航空研究開発機構, p. 31-36, 3 月 → 2016.3 ; 2016.4
- 3 『「宇宙の人間学」研究会記録(その3)』, 「添付資料1「序章」の添付資料 2. 総合学としての新たな「人間学」(「宇宙の人間学」)の構築(中川久定氏の見解)」, 「宇宙の人間学」研究会事務局, 宇宙航空研究開発機構, p. 344-349, 3 月 → 2016.2 ; 2016.4
- 4 『「宇宙の人間学」研究会記録(その3)』, 「添付資料1「序章」の添付資料 3. 『宇宙飛行者のための人間学』——教科書の「序」」, 「宇宙の人間学」研究会事務局, 宇宙航空研究開発機構, p. 350-360, 3 月 → 2016.2 ; 2016.3